

障がい者の生涯学習活動支援に関する調査研究

令和5年3月

北海道立生涯学習推進センター

はじめに

平成 26 年の障害者権利条約の批准や平成 28 年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障がい者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組の重要性が高まっております。

障がい者の生涯学習の充実に向けては、学びの場・機会の拡充や学習環境の整備等が必要であり、学びを身近で支える教育行政の果たす役割は重要です。

こうしたことから、北海道立生涯学習推進センターでは、道内各市町村における障がい者の生涯学習活動の推進に係る情報収集や発信などの取組についての実態調査を行うとともに、社会教育施設における実証事業を実施するなど、障がい者の学習支援の体制構築に向けた調査研究を行いました。

本調査研究は、令和 2 年度（2020 年度）から令和 4 年度（2022 年度）の 3 ヶ年で実施し、北海道教育委員会が受託した文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実証研究事業」の「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」において実施したものです。

本報告書が市町村をはじめ、多くの社会教育関係者の皆さまに活用され、障がい者の生涯を通じた学習活動の更なる充実に向けた様々な取組が展開されることを期待しております。

結びに、本調査研究の実施及び報告書の作成に当たり、御支援・御協力をいただきました自治体の関係者をはじめ、多くの皆さまに心から厚く御礼申し上げます。

北海道立生涯学習推進センター所長 桑原 知己

目 次

はじめに

第 1 章 調査研究の概要	1
1 調査研究の目的 -----	3
2 調査研究の計画 -----	3
(1) 令和 2 年度 (2020 年度) : 実態調査 1 「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」 -----	3
(2) 令和 3 年度 (2021 年度) : 実地調査 「障がいのある人の自然体験に係る学習機会の充実に向けた実地調査」 -----	3
(3) 令和 4 年度 (2022 年度) : 実態調査 2 「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」 -----	3
(4) 令和 4 年度 (2022 年度) : 現地調査 「『障がい者の生涯学習』に関する事業及び社会教育施設の現地調査」 -----	4
(5) 令和 4 年度 (2022 年度) : 実証研究 「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」 ----	4
第 2 章 実態調査 1 「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」	5
1 調査の概要 -----	7
2 調査の結果 -----	8
第 3 章 実地調査「障がいのある人の自然体験に係る学習機会の充実に向けた実地調査」	15
1 調査の概要 -----	17
2 調査の方法-----	17
3 調査の内容-----	18
4 調査の結果-----	19
5 考察（成果と課題）-----	23
第 4 章 実態調査 2 「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」	25
1 調査の概要 -----	27
2 調査の結果 -----	28

第5章 現地調査「『障がい者の生涯学習』に関する事業及び社会教育施設の現地調査」 33

1	調査の目的	35
2	調査の概要	35
3	調査の結果	35
1-1	名寄市・名寄市教育委員会	35
1-2	名寄市民文化センター	37
2-1	釧路市生涯学習センター	37
2-2	釧路市中央図書館	39
3-1	大空町教育委員会	41

第6章 実証研究「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」 43

1	調査の目的	45
2	プログラムの概要	45
3	調査の概要	47
4	調査の結果	48
5	考察（成果と課題）	57

資 料 59

1	令和2年度市町村における「障がい者の生涯学習」に関わる実態調査票	61
2	令和4年度生涯学習推進体制の整備状況調査票	66
3	令和4年度生涯学習に関する住民の意識調査票	68
4	令和4年度インクルーシブキャンプInほっかいどう ～すべては「ととのう」ために～事後アンケート調査用紙（足寄）	74
5	令和4年度インクルーシブキャンプInほっかいどう ～すべては「ととのう」ために～事後アンケート調査用紙（厚岸）	76

第 1 章 調査研究の概要

- 1 調査の目的
- 2 調査の計画
- 3 調査の内容
- 4 調査研究の方法等

第1章 調査研究の概要

1 調査研究の目的

障がい者の生涯学習を推進していく上で、学びを身近で支える教育行政の果たす役割は重要である。

こうしたことから、道内の障がい者の生涯学習活動の推進に係る取組について実態調査を行い、課題を把握するとともに、障がい者の生涯学習を進めるための効果的な取組事例を調査分析し、その成果を発信することで、各市町村において障がい者の生涯学習の推進に向けた様々な取組の展開に寄与することを目的に実施する。

2 調査研究の計画

本研究は、令和2年度（2020年度）から令和4年度（2022年度）の3ヵ年で実施した調査研究の報告である。

（1）令和2年度（2020年度）：実態調査1「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」

令和2年度（2020年度）において、道内178市町村を対象に障がい者が行う学習活動に関するアンケート調査を実施し、その実態を把握した。

（2）令和3年度（2021年度）：実地調査「障がいのある人の自然体験に係る学習機会の充実に向けた実地調査」

令和3年度（2021年度）において、障がいの有無にかかわらず全ての人が体験できる「自然体験や地域散策を通じて学ぶツアー」の実践に向けた調査を行い、今後の障がいのある方を対象としたツアープログラムの実施に向けた実証研究を行った。

実地調査の場所は、北海道十勝地方の社会教育施設や景勝地等とし、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、障がいのある人によるツアーの実施が実現できなかったことから、調査員が現地調査記録動画を撮影し、障がいのある人2名に視聴してもらい、ヒアリングを行った。

（3）令和4年度（2022年度）：実態調査2「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」

令和4年度（2022年度）において、障がい者が行う学習活動に対して、道内の各市町村教育委員会等が実際に行っている支援、学習者等が求める支援等について調査し、その実態を把握した。

アンケート調査は、毎年実施している「生涯学習推進体制の整備状況調査」に、障がい者の生涯学習活動に関する項目を新たに加えて実施するとともに、「生涯学習に関する住民の意識調査」の「障がい者福祉に関する学習」への課題意識の項目の結果を中心に検討することとした。

（４）令和４年度（2022 年度）：現地調査「『障がい者の生涯学習』に関する事業及び社会教育施設の現地調査」

令和４年度（2022 年度）において、障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている事業等の実施及び具体例を聞き取り等で把握するとともに、障がい者への対応を行っている社会教育施設等の体制状況について、視察及び聞き取り等で把握した。

ヒアリング及び視察の対象としたのは、名寄市・名寄市教育委員会、名寄市民文化センター、釧路市生涯学習センター、釧路市中央図書館、大空町教育委員会の５つの機関・施設である。

（５）令和４年度（2022 年度）：実証研究「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」

令和４年度（2022 年度）において、障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行い、成果と課題を明らかにした。

実証事業については、北海道立青少年体験活動支援施設２箇所において、障がいのある人と介助者を対象に実施した。

第2章 実態調査 1 「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」

- 1 調査の概要
- 2 調査の結果

第2章 道内市町村における 「障がい者の生涯学習」に関わる実態調査

1 調査の概要

(1) 目的

障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている支援、学習者等が求める支援等について調査し、障がい者の学習支援を含むモデルプログラムの開発や効果的に学習を支援するための具体的な体制の構築に資する。

(2) 調査方法等の概要

調査主体	○ 北海道立生涯学習推進センター
調査対象	○ 道内 178 市町村教育委員会(札幌市を除く)
抽出方法	○ 全数調査
調査方法	○ 調査票によるアンケート形式の自記式調査法(調査票調査)
調査期間	○ 令和2年 10 月2日(金)～16 日(金)

(3) 調査事項

調査項目	設問数 (該当設問)	回答形式
○「障がい者を対象とした生涯学習活動」に関わる事業の実施	3 (①②③)	2項及び3項選択式
○域内の「障がい者を対象とした生涯学習活動」に関わる事業概要の把握と協力	2 (④⑤)	2項選択式に回答後、複数項目選択式
○社会教育施設における障がい者への支援の体制・状況	1 (⑥)	自記式
○「障がい者の生涯学習活動」に関する事業等の情報提供	1 (⑦)	2項選択式に回答後、複数項目選択式
○行政計画(教育基本計画等)への「障がい者の生涯学習支援」関わる記載	1 (⑧)	2項選択式に回答後、自記式
○「障がい者の生涯学習活動」に関わる職員の研修の状況	1 (⑨)	3項選択式に回答後、自記式
○「障がい者の生涯学習活動」推進上の課題	1 (⑩)	複数項目選択式

(4) 集計方法 ○単純集計／Excel 使用

2 調査の結果

(1) 調査票の回収結果

対象数	回収数	回収率
178 市町村	178 市町村	100.0%

(2) 調査の結果（単純集計）

① 教育委員会が主催する「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」に関わる事業（n=178）

事前に障がい者が参加することを想定して、情報保障やアクセシビリティ（年齢や障がいに関係なく、だれでも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること）等について検討してある事業を行っているのは、7 市町（3.9%）である。

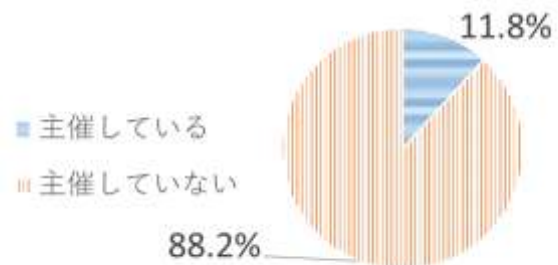
	市町村数
主催している	7
主催していない	171



② 教育委員会が主催する「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業（n=178）

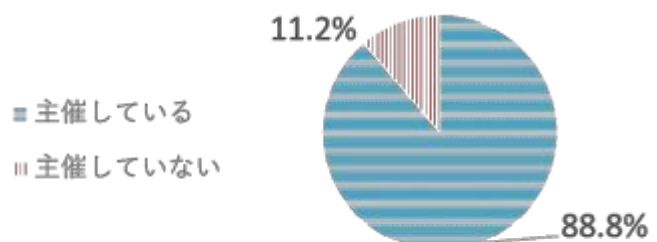
事前に障がい者が参加することを想定して、情報保障やアクセシビリティ等について検討してある事業を行っているのは、21 市町（11.8%）である。

	市町村数
主催している	21
主催していない	157



※ 事前に情報保障やアクセシビリティ等について検討することまではしていないが、「障がいの有無にかかわらず参加者を募集している」、「障がい者の参加の申し込みがあってから対応を考える」ということを許容範囲とした場合に、「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業を行っている」と回答した教育委員会は、158 市町村である。（令和3年1月14日～29日市町村担当者へ聞き取り）

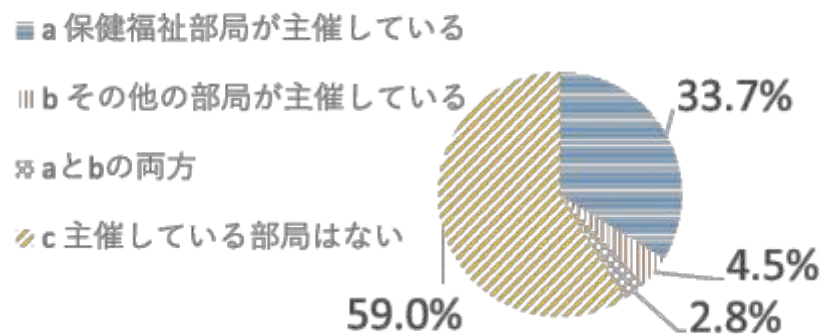
	市町村数
主催している	158
主催していない	20



- ③ 教育委員会以外の部局が主催する「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」や「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業（n=178）

事業を実施している部局は保健福祉部局が多い。教育委員会以外の部局で事業を行っている市町村は、全体の 41.0%である。

	市町村数
a 保健福祉部局が主催している	60
b その他の部局が主催している	8
a と b の両方	5
c 主催している部局はない	105

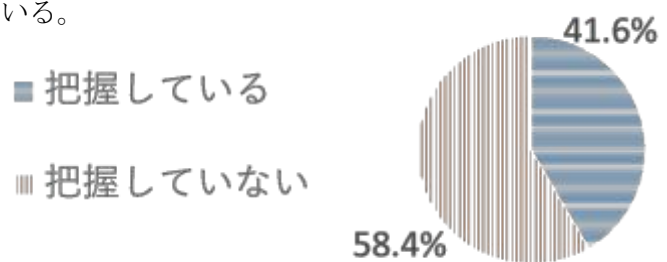


※ 教育委員会または教育委員会以外の部局、もしくはその両方で「障がい者の生涯学習」に関わる事業を行っている市町村（行政が「障がい者の生涯学習」に係る事業が行っている市町村）は、81 市町村（45.5%）である。

- ④ 教育委員会以外の域内の「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」や「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業の概要の把握（n=178）

74 市町村が把握していると回答している。

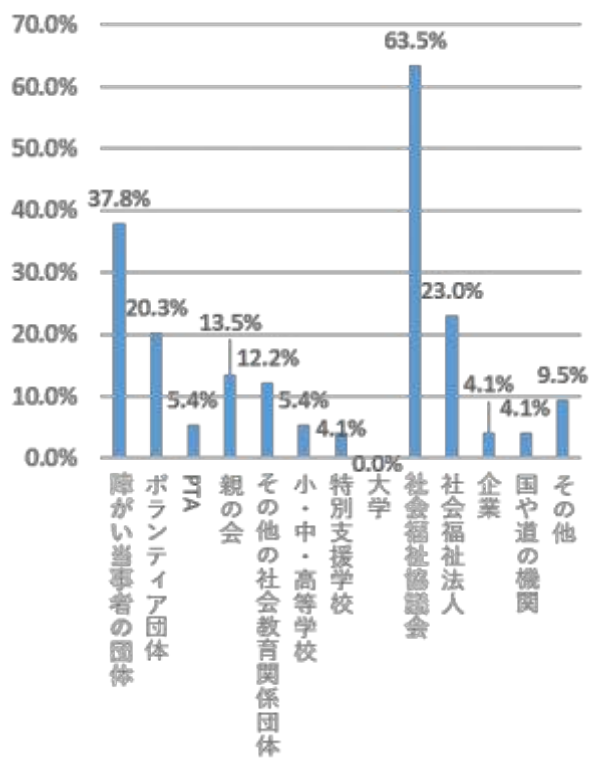
	市町村数
把握している	74
把握していない	104



上記の「把握している」と回答した 74 市町村のうち、把握している事業の主体者は、「社会福祉協議会」が最も多く、次に「障がい当事者の団体」が多い。

(n=74, MA)

	市町村数
障がい当事者の団体	28
ボランティア団体	15
PTA	4
親の会	10
その他の社会教育関係団体	9
小・中・高等学校	4
特別支援学校	3
大学	0
社会福祉協議会	47
社会福祉法人	17
企業	3
国や道の機関	3
その他	7

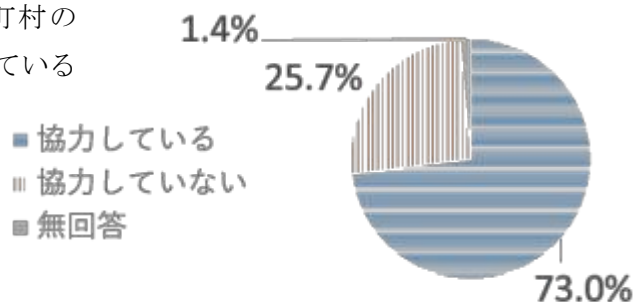


※ 教育委員会または教育委員会以外の部局、もしくはその両方で「障がい者の生涯学習」に関わる事業を行っている市町村と、教育委員会が把握している「域内で『障がい者の生涯学習』に関わる事業」が行われている市町村のどちらかもしくは両方の状況がある市町村（域内で「障がい者の生涯学習」に係る事業が行われている市町村）は、104 市町村（58.4%）である。

- ⑤ 教育委員会以外の域内の「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」や「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業への協力（n=74）

④で「把握している」と回答した市町村の73.0%が事業に「協力している」と回答している

	市町村数
協力している	54
協力していない	19
無回答	1



上記で「協力している」と回答した54市町村が協力している主体は、社会福祉協議会が最も多く、次に障がい当事者の団体が多い。（n=54, MA）

	市町村数
障がい当事者の団体	21
ボランティア団体	10
PTA	4
親の会	6
その他の社会教育関係団体	10
小・中・高等学校	3
特別支援学校	3
大学	0
社会福祉協議会	33
社会福祉法人	10
企業	1
国や道の機関	2
その他	6



教育委員会が上記の主体者に対して行っている協力内容は、会場提供（減免含む）が最も多く、次に事業運営支援が多い。

（n=54, MA）

	市町村数
広報	12
会場提供（減免等含む）	39
企画会議等への参画	10
事業運営支援	24
その他	7



⑥ 社会教育施設の状況 (n=982)

記載のあった 982 の社会教育施設で対応できる障がいの種別で一番多いのは、身体障害（肢体不自由）であった。

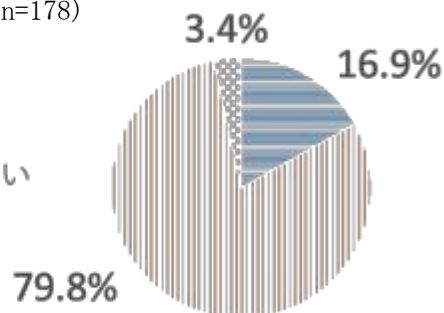
	身体障害 (視覚)	身体障害 (聴覚)	身体障害 (肢体不自由)	身体障害 (病弱)	知的障害	精神障害	発達障害	その他
◎・・・障がいに対して対応できる設備が充実しており、支援ボランティア等の受入体制もある	3	0	6	0	0	0	0	0
○・・・障がいに対して対応できる設備は充実しているが、支援ボランティア等の受入体制がない	26	16	95	15	5	6	8	0
●・・・障がいに対して対応できる設備があり、支援ボランティア等の受入体制もある	8	8	44	8	1	1	1	4
△・・・障がいに対して対応できる設備があり、支援ボランティア等の受入体制がない	123	66	437	155	83	75	80	18
▲・・・障がいに対して対応できる設備はないが、支援ボランティア等の受入体制はある	63	87	36	64	75	52	58	40
×・・・障がいに対して対応できる設備がなく、支援ボランティア等の受入体制もない	759	805	364	740	818	848	835	920

⑦ 「障がい者の生涯学習」に関する事業等の情報提供の状況 (n=178)

情報提供をしている教育委員会は30市町村である。

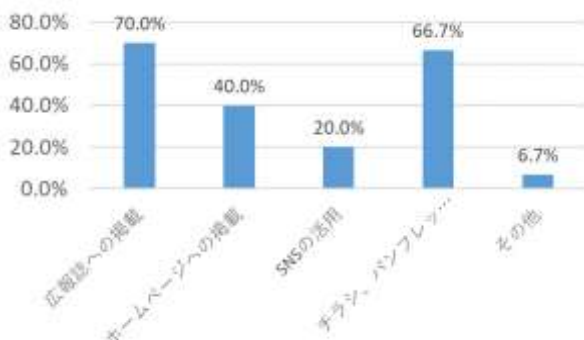
	市町村数
提供している	30
提供していない	142
無回答	6

■ 提供している
 ■ 提供していない
 ※ 無回答



「提供している」と回答した30市町村が行っている情報提供の方法は、「広報誌への掲載」と「チラシ、パンフレット等の配布」が多い。(n=30, MA)

	市町村数
広報誌への掲載	21
ホームページへの掲載	12
SNSの活用	6
チラシ、パンフレット等の配布	20
その他	2

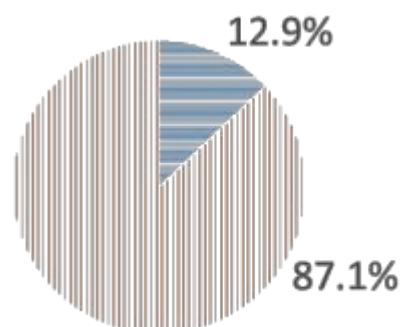


⑧ 市町村が策定する教育全般に関する計画（教育振興基本計画等）への障がい者の生涯学習支援に関わる施策や事業の記載 (n=178)

23市町村において、障がい者の生涯学習支援に関わる施策や事業の記載がある。このうち、最も多いのが「生涯学習・社会教育に関する計画」である。

	市町村数
記載がある	23
記載がない	155

■ 記載がある
 ■ 記載がない



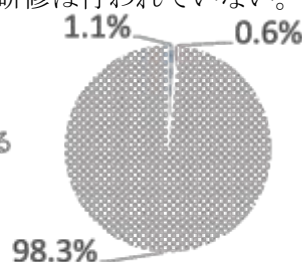
※ 生涯学習・社会教育に関する計画(8市町村)、教育振興基本計画(7市町村)、スポーツ推進計画(5市町村)、総合計画(3市町村)、福祉計画(2市町村)、その他計画・事業等(6市町村)

⑨ 教育委員会職員を対象とした「障がい者の生涯学習」に関する研修の実施 (n=178)

ほとんどの市町村の教育委員会で「障がい者の生涯学習」に関する研修は行われていない。

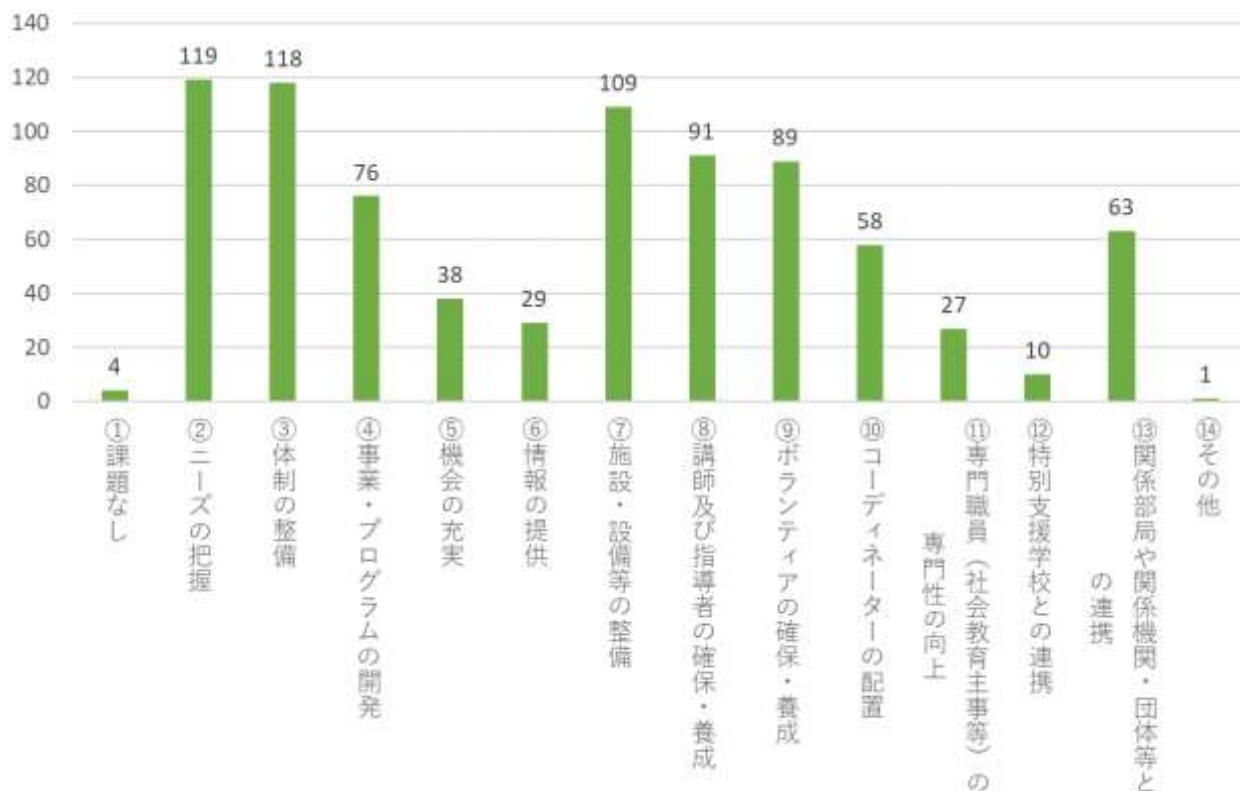
	市町村数
行っている	2
障がいの理解等に関する研修は行っている	1
行っていない	175

■ 行っている
 ■ 障がいの理解等に関する研修は行っている
 ※ 行っていない



⑩ 障がい者の生涯学習推進上の課題（n=178, MA）

課題が「ない」と回答した市町村は、4市町村のみで、他の市町村は、「②生涯学習活動に関するニーズの把握」、「③生涯学習活動に関する体制の整備」、「⑦生涯学習活動を行う施設・設備等の整備」を課題として挙げているところが多い。



凡例

- | | |
|-------------------------|--|
| ①課題なし | ⑩特別支援教育や障がい者福祉等に関する専門的知見を有する生涯学習活動に係るコーディネーターの配置 |
| ②生涯学習活動に関するニーズの把握 | ⑪生涯学習活動に係る専門職員（社会教育主事等）の専門性の向上 |
| ③生涯学習活動に関する体制の整備 | ⑫特別支援学校との連携 |
| ④生涯学習活動に関する事業・プログラムの開発 | ⑬関係部局や関係機関・団体等との連携（特別支援学校を除く） |
| ⑤生涯学習活動の機会の充実 | ⑭その他 |
| ⑥生涯学習活動に関する情報の提供 | |
| ⑦生涯学習活動を行う施設・設備等の整備 | |
| ⑧生涯学習活動に係る講師及び指導者の確保・養成 | |
| ⑨生涯学習活動に係るボランティアの確保・養成 | |

第3章 実地調査「障がいのある人の自然体験に係る学習機会の充実に向けた実地調査」

- 1 調査の概要
- 2 調査の方法
- 3 調査の内容
- 4 調査の結果
- 5 考察（成果と課題）

第3章 実地調査「障がいのある人の自然体験に係る学習機会の充実に向けた実地調査」

1 調査の概要

(1) 目的

障がいの有無にかかわらず全ての人が体験できる「自然体験や地域散策を通じて学ぶツアー」の実践に向けた調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたツアープログラムの実施に向けた実証研究を行う。

(2) 調査方法等の概要

「インクルーシブツアーIn ほっかいどう」

- ・障がいのある方も「自然体験や散策」などを通じた学びを体験できるような「体験ツアープログラム」の開発を目指し、実地調査を行う。
- ・社会教育施設や景勝地、北海道遺産等の「学び」につながるスポットを対象とする。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、調査員が現地調査記録動画を撮影し、調査研究協力員（障がい当事者）に視聴してもらう。
- ・記録にあたっては、障がい当事者の視点（バリアフリーの状況、車椅子使用時の状況）を意識した撮影等を行う。
- ・調査終了後、動画を「調査研究協力員（障がい当事者）」に視聴を依頼し、ヒアリングを行う。
- ・ヒアリング終了後、調査報告書としてまとめる。

2 調査の方法

(1) 日程

ア 実地調査

令和3年（2021年）10月22日（金）～23日（土）

イ ヒアリング調査

令和4年（2022年）1月19日（水）帯広市（オンライン）

令和4年（2022年）2月16日（水）札幌市

(2) 場所

ア 実地調査：北海道十勝地方

- ・スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド（帯広市拓成町）
- ・帯広競馬場（とまちむら・馬の資料館）（帯広市）
- ・足寄町動物化石博物館（足寄町）
- ・然別湖ネイチャーセンター（鹿追町）

イ ヒアリング調査

- ・帯広市（オンライン）
- ・札幌市（北海道庁別館）



(3) 調査員（研究員）

ア 実地調査

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課職員 3 名

北海道立生涯学習推進センター職員 1 名

イ ヒアリング調査

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課職員 1 名

北海道立生涯学習推進センター職員 2 名

3 調査の内容

(1) 実地調査

- ①スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド（帯広市拓成町）の視察及び動画撮影
- ②帯広競馬場（とちまちら・馬の資料館）（帯広市）の視察及び動画撮影
- ③足寄動物化石博物館（足寄町）の視察及び動画撮影
- ④然別湖ネイチャーセンター（鹿追町）の視察及び動画撮影

(2) ヒアリング調査

①調査対象者（調査研究協力員）

- ・28 歳男性（帯広市在住）：肢体不自由者（右上肢）
- ・44 歳女性（札幌市在住）：肢体不自由者（下肢、電動車いす使用）

②調査内容

実地調査で撮影した動画を視聴し、ヒアリングを実施
質問項目

- ・どのようなライフスタイルを送っているか、対象者自身の生活実態を理解する質問
- ・対象者が求める自然体験活動や体験ツアーの価値
- ・普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット
- ・これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいという要望
- ・普段実施している又はこれまで実施した体験活動の種類、内容、その理由
- ・障がい当事者の視点から視聴した動画の内容についての感想及び課題点
例) 施設のバリアフリー、スタッフの対応等
- ア 自然体験活動施設（スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド）
- イ 北海道遺産関連施設（帯広競馬場）
- ウ 社会教育施設（足寄町動物化石博物館）
- エ 自然体験学習提供施設（然別湖ネイチャーセンター）
- ・コロナ禍において自然体験活動等を実施する際に必要とする合理的配慮



4 調査の結果

(1) 障がい当事者に関する基本情報

項 目	調査対象者 A	調査対象者 B
①障がい種別	身体障がい (肢体不自由：車椅子不要)	身体障がい (肢体不自由：車椅子必要)
②性別・年齢	男性・28 歳	女性・44 歳
③職種	事務職	事務職
④居住地域	帯広市	札幌市
⑤障がいに診断された時期	就学前（生まれつき）	就学前（生まれつき）
⑥特別支援学校通学経験	有り（高等養護学校通学）	無し（普通学校通学）
⑦求める自然体験活動や体験ツアーの価値	北海道の豊かな自然環境を生かしたアウトドア	北海道の豊かな自然環境を生かした各種体験活動
⑧普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット	・高校の宿泊研修で青少年体験活動支援施設を利用 ・博物館見学 ・ドライブ（景勝地見学）	・中学や高校の宿泊研修で青少年体験活動支援施設を利用 ・美術館見学 ・景勝地見学
⑨これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいこと	・障がい者同士で利用した場合はそれほど困ることはないが、人的なサポートがあるとよい	・トイレやお風呂、バリアフリー等の環境整備（特に、電動車椅子の場合、地面がフラットであることが必要）
⑩普段実施している体験活動の種類、内容	・水泳や卓球等のスポーツ	・病院のリハビリなど体を動かす程度
⑪その他	・高等養護学校で様々な障がい者と接してきた	・自然散策はしない。虫が嫌い

(2) 障がい当事者の視点から視聴した動画の内容についての感想及び課題点

①自然体験活動施設（スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド）

<https://sbs.snowpeak.co.jp/tokachiporoshiri/>

- ・砂利や芝生など道路が舗装されていない場所は、電動車椅子を使用している人にとって走行が困難。全部の道を舗装する必要はないが、車椅子用の動線が必要。
- ・段差が障へきになるかは、車椅子を使用している人の中でも個人差がある。電動車椅子を使用している人には、フラットな方がよい。
- ・キャンプ場の住箱（宿泊施設）へ入る際、階段しかないのは車椅子を使用している人にとって移動が困難なため、スロープが必要。
- ・住箱とテントのどちらを利用するかは、障がいの有無にかかわらず好みがあると思う。また、障がい種によっても利用のしやすさが異なるので、利用者が選択できるようにするとよい。
- ・車椅子から降りられる人はテントを利用できると思う。
- ・テントの設営などキャンプをする際に、障がいの有無にかかわらず、道具を使い慣れていない人をサポートする専門スタッフがいるとよい。
- ・車椅子を使用している人でも利用できる多目的トイレが設置されていることはよい。



スノーピーク×勝ポロシリキャンプフィールド



芝生のキャンプサイト



トレーラーで可動できる住箱



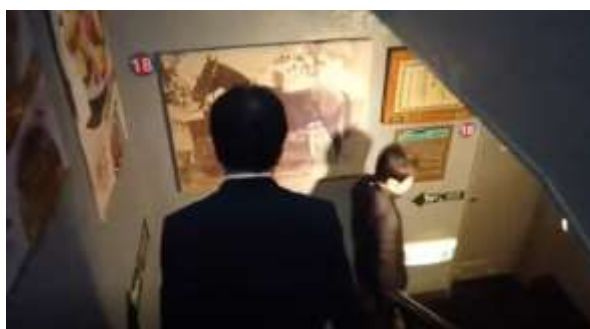
ディステーション×勝の施設内

②北海道遺産関連施設（帯広競馬場・とかちむら・馬の資料館）<https://www.tokachi-mura.com>

- ・馬の資料館は1階と2階に展示室があるが、2階へ上がるためのエレベーターがないのは、車椅子を使用している人にとって自力で移動するのは困難。
- ・同じ複合施設「とかちむら」内にある他の施設で食事をしたほか、ばんえい競馬場へ行ったことがある。施設内には多目的トイレもあり、車椅子を使用している人でも見学できる場所があるのはよい。



「とかちむら」にある馬の資料館



階段で移動する1Fと2Fの展示室



北海道遺産のばんえい競馬を見学できる競馬場



座って見学できる席

③社会教育施設（足寄動物化石博物館）<https://www.museum.ashoro.hokkaido.jp>

- ・バリアフリーに対応した施設なので、安心して見学が可能。
- ・展示内容は、車椅子を使用している人でも鑑賞はできるが、解説の文字については、もう少し大きい方が読みやすい。
- ・展示の高さについて、車椅子を使用している人や小さな子供の目線に合わせてもう少し低くした方がよい。
- ・ミニ発掘、レプリカづくり、古生物模型づくりなど、どの体験メニューも座って活動できるので安心。



足寄動物化石博物館



スロープになっている入口



恐竜に関する展示



車椅子の視点から見た展示

④自然体験学習提供施設（然別湖ネイチャーセンター）<https://www.nature-center.jp>

- ・屋外にスロープを設置してあるが、舗装されていないため、電動車椅子を使用している人にとっては走行が困難。スロープの横に転落防止のためのガードも必要。
- ・屋外にある足湯について、肢体不自由者にとって靴やソックスを脱いだり履いたり、濡れた足を拭いたりするのが困難。
- ・美しい大自然と触れ合うことができるフィールドにおいて、様々な自然体験活動ができ、アウトドアガイドのスタッフ体制が充実しているのはよいが、障がいの有無にかかわらず体験活動できるプログラムを提供しているのか情報がほしい。



然別湖



屋外にある足湯



舗装されていないスロープ



ドローンを使って撮影した然別湖

⑤その他

- ・自然体験活動は屋外で活動することが多いと思うが、屋外を車椅子で移動する際に、天気によって左右される。降雨など天気が悪いと道路のコンディションが悪くなる上、傘など手に持つものも必要になるので、屋外施設の利用を避けてしまいがち。
- ・車椅子を使用している人にとって、降雪のある冬の屋外での活動は厳しい。
- ・施設において段差の問題を解消するためには、J Rやバスなどの公共交通機関で使用されている可動式のスロープがあるとよい。
- ・エレベーターなどの設備があるかどうかなど、参加する前に情報提供があるとよい。
- ・障がいの種類によって必要なサポートや配慮の内容が異なる。ツアーを企画する際は、当事者だけでなく日常的にサポートをしている家族や学校の教員等も同伴できるようにすると、運営者側も安心ではないか。
- ・専門スタッフや支援する人などサポート体制が充実しているとよい。
- ・自然体験活動を希望するかどうかは、施設の設備がバリアフリー等の対応がなされているかどうか、自力で行ける場所かどうかによって左右される。
- ・施設がバリアフリー等の整備が進んでいる場所には何度も行きたいという気持ちになる。
- ・障がいの有無にかかわらず、ツアーに参加するかどうかは参加者の選択である。
- ・障がいの有無にかかわらず、個々の興味や関心が異なるので、体験できる選択肢を複数用意し、グループに分かれて実施できるとよい。
- ・障がい者の中には、自宅に引きこもっている人も多いと思うので、このようなツアー企画のチラシを見て、少しでも外に出てみようという気持ちになることを期待したい。

(3) ヒアリング調査を通して得られた結果

- ・車椅子を使用している人への対応として施設・設備のバリアフリー化は必要不可欠である。
- ・施設・設備の整備状況や人的支援体制の有無など、参加の判断材料となる情報を事前に提供することが必要である。
- ・自然体験活動等へのニーズはあるものの、活動場所となる施設・設備がバリアフリー等の対応がなされているか、自力で行ける場所かなどによって参加が左右される。
- ・障がい種や参加者の好みによって選択できるようなプログラムを提供することが望ましい。例えば、住箱とテントのどちらを利用するかは、障がい種によって利用のしやすさが異なる上、障がいの有無にかかわらず好みによっても異なるので、利用者が選択できるようにするとよい。
- ・屋外で活動する際には、障がいの有無にかかわらずリスクを伴うので、ガイドや専門スタッフ等の人的サポート体制の充実を図ることが必要である。
- ・障がい種や障がいの度合いによって必要とするサポートの内容に個人差があるため、ツアー企画

の際は、当事者だけでなく日常的にサポートをしている家族や学校の教員等も同伴できるようにするとより多くの障がい者が安心して参加できる。

- ・様々な人に頼ってよいという考えのもと、障がい者の学びのニーズを踏まえた合理的配慮を含む必要な支援体制の充実を図ることが必要である。

5 考察（成果と課題）

（１）成果

- ・コロナ禍において、現地のフィールドで実際に体験活動を実施することはできなかったが、調査員が収録した動画を視聴してもらうことで、当事者の意見を聞くことができた。
- ・実施した調査対象者２名は、いずれも肢体不自由ではあるものの、車椅子を使用している人とそうでない人の両方の視点からの意見を聞くことができた。
- ・高等養護学校に通学した経験がある調査対象者からは、様々な種類の障がいを持つ人と接してきた経験を踏まえ、多様な障がい者の視点から意見を聞くことができた。
- ・障がいの有無にかかわらず、自然体験活動を行う場合、施設・設備等の整備だけでなく、ガイドや専門スタッフなどの人的な支援体制が必要であることがわかった。
- ・コロナ禍において自然体験活動等を実施する際に必要とする合理的配慮については、障がい者に特化したことではなく、高齢者や乳幼児、基礎疾患がある人への配慮などと同様に感染対策が必要であることがわかった。

（２）今後の課題

- ・今回の調査では、肢体不自由者を対象にヒアリングを実施したが、様々な障がいを持つ人を対象にしたプログラムを開発するためには、他の種の障がい当事者を対象に調査を実施する必要がある。例えば、視覚障がいや聴覚障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいなど障がいの特性を踏まえた配慮の内容を検討する。
- ・コロナ感染症への感染対策として、現地フィールドにおける体験活動を実施することができなかったが、実際に体験してみないと気付かない課題も考えられることから、障がい当事者による実地体験を通じた調査を実施する。
- ・青少年教育施設など社会教育施設において、障がい者も参加可能な自然体験活動のモデルプログラムを開発し検証する。
- ・事業を進める上で、各地域で障がい者の取組を支援する人材の増加、普及啓発や人材育成に向けた取組を行うなど、障がい者の学びのニーズを踏まえた合理的配慮を含む必要な支援体制の構築を図る。
- ・身近な人がいなくても支えられる環境づくりとそのための人材育成を通じた共生社会の実現を目指す。

第4章 実態調査2「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」

- 1 調査の概要
- 2 調査の結果

第4章 実態調査2「道内市町村における『障がい者の生涯学習』に関わる実態調査」

1 調査の概要

(1) 目的

障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている支援、学習者等が求める支援等について調査し、障がい者の学習支援を含むモデルプログラムの開発や効果的に学習を支援するための具体的な体制の構築に資する。

(2) 調査方法等の概要

ア 生涯学習推進体制の整備状況調査

調査主体	北海道立生涯学習推進センター
調査対象	北海道内 179 市町村教育委員会
抽出方法	全数調査
調査方法	調査票によるアンケート形式の自記式調査法（調査票調査）
調査基準日	令和4年（2022年）6月1日
調査期間	令和4年（2022年）6月16日（木）～8月17日（水）
集計方法	単純集計／Excel 使用

イ 生涯学習に関する住民の意識調査

調査主体	北海道立生涯学習推進センター
調査対象	北海道内 178 市町村在住の住民（各市町村7名）＝1,246人（札幌市を除く）
抽出方法	標本抽出法 割当：各市町村の10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上の各年齢層から1名ずつ、男女比が均等となるよう対象者を選定
調査方法	調査票又は Google フォームによるアンケート形式の自記式調査法
調査基準日	令和4年（2022年）11月4日
調査期間	令和4年（2022年）11月12日（金）～12月19日（月）
集計方法	単純集計／Excel 使用

(3) 調査項目

ア 生涯学習推進体制の整備状況調査

- ① 域内で住民が参加できる「障がい者の生涯学習活動」に関する情報を収集・把握しているか
- ② 「把握している」と回答した場合の実施機関
- ③ 「障がい者福祉に関する学習」の実施

※現代的課題等の以下の項目に関する学習機会の取組を実施しているか

- 1 環境に関する学習：地域の自然環境やその保全、「木育」など
- 2 食に関する学習：「食育」や食をとおした地域の活性化など
- 3 国際理解に関する学習：諸外国の人々とお互いの文化、習慣等の理解など
- 4 超高齢社会に関する学習：生活習慣病の予防、日常の介護など
- 5 防災に関する学習：自然災害等の危険性や安全な行動など
- 6 男女平等参画に関する学習：女性の人権尊重やハラスメントなど

- 7 安全・安心な生活に関する学習：疾病、犯罪、交通事故等の生命・健康や防犯ボランティアなど
- 8 消費生活に関する学習：悪質商法、訪問販売、金融など
- 9 人権に関する学習：ドメスティックバイオレンス、児童虐待、ネットトラブルなど
- 10 障がい者福祉に関する学習：福祉制度や福祉のまちづくりなど
- 11 地域活動に関する学習：ボランティアや地域活動など
- 12 子どもの貧困に関する学習：家庭が抱える経済や生活環境、学習機会の格差の問題など

イ 生涯学習に関する住民の意識調査

① 「障がい者福祉に関する学習」への課題意識

※あなたは、日常生活の課題について、どのように捉えているか。（6件法：「大きな課題」「どちらかと言えば課題である」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば課題ではない」「課題ではない」「わからない」）

- 1 環境に関する学習：地球温暖化や自然環境の保全など、環境に関すること
- 2 食に関する学習：安全・安心な食材や望ましい食生活に関すること
- 3 国際理解に関する学習：異文化の理解や交流など、国際理解に関すること
- 4 超高齢社会に関する学習：介護や孤独死、地場産業の担い手不足など、超高齢社会に関すること
- 5 防災に関する学習：災害の危険性に関する理解や共助体制など、防災に関すること
- 6 男女平等参画に関する学習：女性の人権尊重や社会進出の促進など、男女平等参画に関すること
- 7 安全・安心な生活に関する学習：犯罪や交通事故、疾病など、安全・安心な暮らしに関すること
- 8 消費生活に関する学習：悪質な販売方法や特殊詐欺など、消費者教育に関すること
- 9 人権に関する学習：児童虐待やプライバシーの侵害など、人権に関すること
- 10 障がい者福祉に関する学習：だれもが暮らしやすいまちづくりに関すること
- 11 地域活動に関する学習：ボランティアや地域の活性化など、地域活動に関すること
- 12 子どもの貧困に関する学習：家庭の経済や生活環境、学習機会の格差など、子どもの貧困に関すること

2 調査の結果

(1) 調査票の回収結果

ア 生涯学習推進体制の整備状況調査

対象数（市町村）	有効回答数（市町村）	回収率（%）
179	179	100

イ 生涯学習に関する住民の意識調査

対象数（人数）	有効回答数（人数）	回収率（%）
1,246 人	1,094（164 市町村）	87.8

(2) 調査の結果（単純集計）

① 域内で住民が参加できる「障がい者の生涯学習活動」に関する情報を収集・把握している市町村（n=179）

障がい者の生涯学習に関する実態を把握しているのは、49 市町村で全体の 27.4%である（図 4-1）。

令和 2 年度（2020 年度）調査の 74 市町村から減少しているが、コロナ禍において、事業等の活動を実施するのが困難だったことが要因の一つとして推察される。

項目	市町村	割合
収集・把握している	49	27.4%
収集・把握していない	130	72.6%

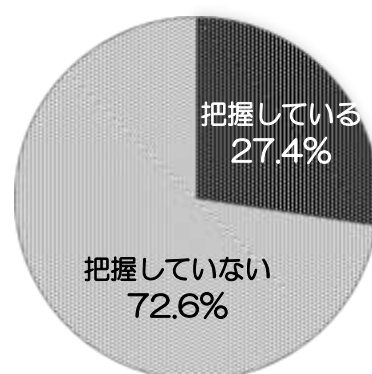


図 4-1 障がい者の生涯学習に関する実態を把握している市町村

② 「障がい者の生涯学習活動」に関する情報を収集・把握している実施機関（n=49）

障がい者の生涯学習に関する実態を把握していると回答した 49 市町村における実施機関の割合は、教育委員会主催が 51.02%(25 市町村)と最も多く、次いで、首長部局主催が 44.9%(22 市町村)、教育委員会の後援・関与が 36.73%(18 市町村)、北海道の事業が 28.57%(14 市町村)、国の事業が 8.16%(4 市町村)、特別支援学校等の事業が 4.08%(2 市町村)と続き、大学の事業については実施している市町村がなかった。また、その他の事業が 36.73%(18 市町村)と回答しており、主に社会福祉法人、NPO、民間企業等などの主催によるものである（図 4-2）。実態を把握している 49 の市町村とその実施機関については、表 4-1 のとおりである。

令和 2 年度（2020 年度）調査において、「障がい者の生涯学習活動」に関わる事業を教育委員会が主催していると回答した市町村の数は 7 市町村であったことから、今回の調査では増加していることが明らかになった。



図 4-2 障がい者の生涯学習に関する実態を把握している市町村における実施機関の割合

③ 「障がい者福祉に関する学習」を実施している市町村（n=179）

障がい者福祉に関する学習を実施している市町村は127市町村（72.0%）あり、事業や取組等の実施機関の内訳については、教育委員会が22市町村（12.3%）、首長部局が85市町村（47.5%）、関係団体・民間等が78市町村（43.6%）である（図4-3）。

表 4-1 障がい者の生涯学習に関する実態を把握している市町村と実施機関

管内	No.	市町村	障がい者の生涯学習活動に関する情報の収集・把握							
			①教育委員会主催	②首長部局主催	③教育委員会後援・関与	④国の事業	⑤道の事業	⑥特別支援学校等の事業	⑦大学等の事業	⑧その他
空知	1	砂川市			●	●	●			
	2	奈井江町		●						●
	3	雨竜町		●						
石狩	4	千歳市					●			
	5	北広島市	●	●			●			●
	6	新篠津村	●	●						
後志	7	島牧村	●	●	●					
	8	黒松内町								●
	9	蘭越町	●							
胆振	10	余市町	●							
	11	室蘭市								●
	12	苫小牧市	●							
日高	13	豊浦町								●
	14	白老町	●	●	●					●
	15	むかわ町								●
渡島	16	新ひだか町	●	●			●	●		●
	17	鹿部町	●		●					●
	18	森町	●	●	●					●
檜山	19	長万部町			●					
	20	奥尻町								●
	21	せたな町	●	●	●		●			
上川	22	士別市			●					●
	23	富良野市					●			
	24	東神楽町					●			
	25	当麻町	●							●
	26	上川町					●			
	27	美瑛町					●			●
	28	上富良野町		●						●
	29	占冠村				●	●			
	30	剣淵町		●						
	31	美深町	●	●	●					
	32	中川町	●	●	●	●	●			
	33	小平町					●	●		●
留萌	34	浜頓別町	●	●	●					
	35	利尻富士町		●	●					
オホーツク	36	斜里町	●	●						
	37	清里町	●	●	●					
	38	大空町	●							
十勝	39	帯広市	●	●	●		●			
	40	中札内村								
	41	大樹町		●						●
	42	足寄町	●							
	43	陸別町	●		●					
釧路	44	釧路市		●						
	45	厚岸町	●							
	46	標茶町	●	●	●					
	47	鶴居村	●	●	●	●	●			●
根室	48	別海町	●		●					
	49	羅臼町								●
		計	25	22	18	4	14	2	0	18

令和3年度（2021年度）調査においても同様に127市町村が、障がい者福祉に関する学習を実施しており、実施機関については、教育委員会が1.1%の増加、首長部局が0.6%の増加が見られた一方で、関係団体・民間等については変化が見られなかった（図4-3）。

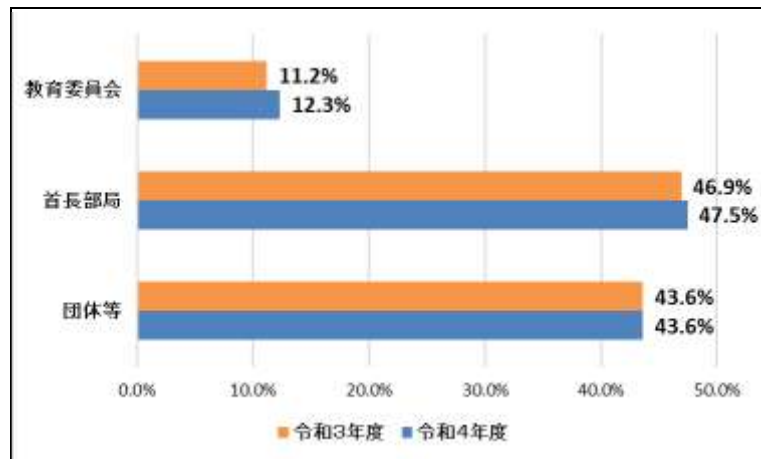


図 4-3 「障がい者福祉に関する学習」を実施している市町村における実施機関の割合

④ 住民の障がい者福祉に関する学習への課題意識 (n=1,094)

住民の障がい者福祉に関する学習への課題意識について、「課題である」「どちらかと言えば課題である」と答えた割合は 66.5%で、回答者の 6 割以上の住民が、高い意識を持っていることが明らかになった。また、12 ある質問項目の中では、5 番目に意識が高かった。

住民の意識調査と教育委員会や首長、団体等が実施している学習機会の提供との相関を見ると、「障がい者福祉に関する学習」の項目については、住民の課題意識が 66.5%であるのに対し、学習機会については 53.6%と十分ではないことが明らかになった(図 4-4)。

なお、住民の課題意識が高く、学習機会もある項目は、「高齢化社会」「防災」「食」「環境」「安全・安心な生活」である。

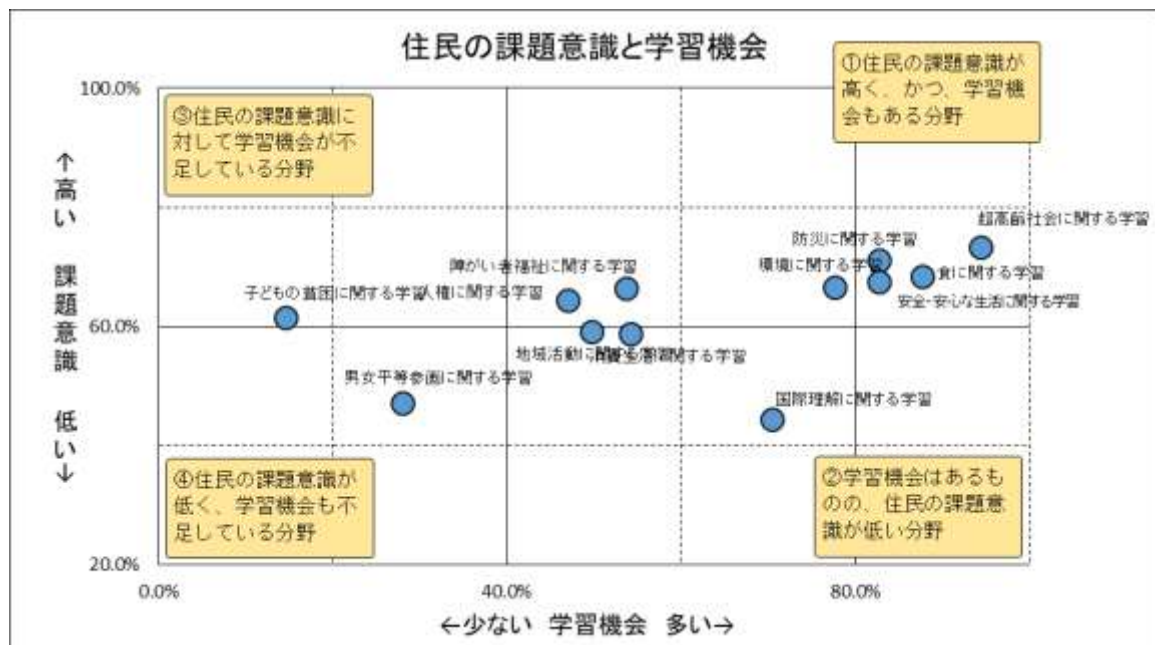


図 4-4 住民の地域課題への意識と学習機会

第5章 現地調査「『障がい者の生涯学習』に関する事業及び社会教育施設の現地調査」

- 1 調査の目的
- 2 調査の概要
- 3 調査の結果

第5章 現地調査「『障がい者の生涯学習』に関する事業及び社会教育施設の現地調査」

1 調査の目的

- ・ 障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている事業等の実施及び具体例を聞き取り等で把握する。
- ・ 障がい者への対応を行っている社会教育施設等の体制状況について、視察及び聞き取り等で把握する。

2 調査の概要

	市町村	対 象	調査方法
1-1	名寄市	名寄市・名寄市教育委員会	担当者へのヒアリング
1-2		名寄市民文化センター	施設の視察
2-1	釧路市	釧路市生涯学習センター まなぼと	施設の視察、担当者へのヒアリング
2-2		釧路市中央図書館	施設の視察、担当者へのヒアリング
3-1	大空町	大空町教育委員会	担当者へのヒアリング

3 調査の結果

1-1 名寄市・名寄市教育委員会

(1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月8日(木)
場 所	名寄市役所
内 容	名寄市における障がい者の生涯学習の実施状況等
方 法	担当者へのヒアリング
協力者	名寄市教育委員会生涯学習課長 佐々木 憲一 同 社会教育主事 白井 薫 名寄市健康福祉部社会福祉課長 滋野 俊一 同 障がい福祉係長 宮川 生史
調査員	北海道立生涯学習推進センター主査 国枝 知 同 社会教育主事 浅川 美緒

(2) 事業の概要

- ・ 障がい者向けの生涯学習事業を行っているわけではないが、支援を要する参加者がいるときに、社会福祉協議会から支援者が対応する仕組みを委託方式で構築している。
 - ・ 手話通訳や要約筆記、補助などに社会福祉協議会のサークル等の団体が対応している。
 - ・ 現在、高齢者大学に1名、リーダー研修に発達障がいの子どもが1名参加している。
 - ・ 名寄高等学校の普通科に四肢障がいのある生徒の入学希望があり、北海道と市で費用を分配し、ヘルパーをつけるなど、当該生徒の入学後のケアを実施している(名寄市生活サポート支援事業)。
- 令和5年度にも対象生徒が1名出てくる見込みで、北海道教育委員会と対応について検討している。
- ・ 社会福祉協議会が「ボッチャ」の大会を実施しており、道具を購入して欲しいといった要望が老人クラブを中心に上がっている。
 - ・ 学校の授業において、社会福祉協議会が全盲の方によるパラスポーツの様子を子どもたちに見せ

るなど、継続的に障がいについての教育を行っており、パラリンピックの影響もあって、子どもを含めた市民全体のパラスポーツへの関心が高まっている。

（３）運営体制

- ・市と社会福祉協議会が委託契約を結んで運営している。

（４）具体的な活動

- ・障がい者の希望に応じて、様々な支援を行い、かかった経費を報告する仕組みをとっている。

（５）成果・工夫点

- ① 障がい者が生涯学習事業に参加できるように、支援体制が構築されている。
- ② 社会福祉協議会で「ボッチャ」大会を継続して実施しており、高齢者を含め、市民の関心が高まっている。
- ③ 社会福祉協議会の係長が学校にも積極的に働きかけるなど、様々な活動を広げており、市の保健福祉部局や市教委の生涯学習部局とも連携しながら活動を進めている（現社会福祉課長・生涯学習課長は社会福祉協議会に出向していた経験がある）。

（６）今後の方向性

- ・次に策定する市の総合計画には、重点として障がい者の活動が盛り込まれる予定である。

（７）ポイント

- ① 障がい者が生涯学習活動に参加したときの支援体制が関係団体との委託事業として構築されている。
- ② パラスポーツを通して、子どもを含めた一般市民が活動を理解する機会を創出している。
- ③ 社会福祉協議会の担当者が学校を含めた団体とつながりながら、様々なところで活動を推進しており、キーマンの役割を果たしている。
- ④ 社会福祉協議会に市役所から数年にわたり管理職を出向させており、保健福祉部局や社会教育部局と連携した活動を進めることができている。

（８）考察

- ・障がいがあっても、事業に参加できる支援の仕組みができているのは重要なことである。
- ・社会福祉協議会を中心とした様々な事業展開がなされており、パラスポーツは、市民の高い関心が得られている。
- ・個別の支援を進める意識があり、高校生の入学へのサポートなど、障がい者のニーズに応じた支援を進めている。

1-2 名寄市民文化センター

(1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月9日(金)
場 所	名寄市民文化センター
内 容	施設のバリアフリーの現状
方 法	施設の視察
協力者	名寄市教育委員会生涯学習課長 佐々木 憲一
調査員	北海道立生涯学習推進センター主査 国枝 知 同 社会教育主事 浅川 美緒

(2) 障がい者への対応状況

- ・西館と東館がつながっている。近年建設された西館にはバリアフリー設備が整っている。



段差がないバリアフリー設計の玄関



スロープがあり車椅子も利用可能なホールへの通路



エレベーターを完備



広くて手すりやオストメイトが完備されている多目的トイレ

2-1 釧路市生涯学習センター

(1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月13日(火)
場 所	釧路市生涯学習センター まなぼっと
内 容	障がい者の生涯学習の実施状況、施設の障がい者への対応状況等
方 法	施設の視察、担当者へのヒアリング
協力者	釧路市生涯学習センター館長 宮原 亮
調査員	北海道立生涯学習推進センター主幹 長岡 広之 同 社会教育主事 斉藤 萌

(2) 事業の概要

事業名：まなぼっとシニア講座「わくわくセカンドライフ」

事業内容：体の不自由な人に会ったら

（３）運営体制

- ・ 釧路市社会福祉協議会ガイドヘルパーと釧路市聴覚障がい者協会により運営している。

（４）具体的な活動

- ・ 疑似体験を通して、各種障がい者への支援方法や課題などについて理解を深めている。

（５）ポイント

- ・ 様々な障がい者への支援の方法について理解を深められるような取組をしている。

（６）障がい者への対応状況

- ・ 対応可能な障がい種：肢体不自由、聴覚障がい
- ・ 支援体制：身体障がい者用トイレ、難聴者集団補助装置



車椅子専用スロープが設置されている玄関



集団補聴装置箇所が設置されているホール



身障者用トイレ



オストメイト対応トイレ

2-2 釧路市中央図書館

(1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)9月13日(火)
場 所	釧路市中央図書館
内 容	障がい者の生涯学習の実施状況、施設の障がい者への対応状況等
方 法	施設の視察、担当者へのヒアリング
協力者	釧路市中央図書館・釧路文学館 館長 中山 朗生 同 副館長 石原 美津代
調査員	北海道立生涯学習推進センター主幹 長岡 広之 同 社会教育主事 斉藤 萌

(2) 事業の概要

事業名：対面朗読サービス

事業内容：朗読ボランティアが希望する図書(資料)を対面で朗読するサービス

対象者：視覚に障がいのある方や、活字が見えづらく本を読むのが大変と感じられる方

(3) 運営体制

- ・ボランティアにより運営している。

(4) 具体的な活動

- ・専用の対面朗読室にて対面で朗読
- ・週2回、1回2時間まで
- ・サービスの申込みは1週間前まで図書館に直接問い合わせ

(5) 障がい者への対応状況

- ・対応可能な障がい種：補聴器や人工内耳を装着している方、視覚障がいの方
- ・支援体制：ヒアリンググループ補聴システム、大活字本の配架、認知症コーナー、手話コーナー、拡大読書器、読みあげ機の設置、聴覚障がい者用屋内信号装置(火災等緊急時用)
- ・具体的な活動：釧路市図書館職員により運営



対面朗読室



ヒアリンググループ補聴システム



拡大読書器・読みあげ機



車椅子用読書スペース



聴覚障がい者用屋内信号装置（火災等緊急時用）

（６）特色

- ・配架する棚の高さを低く設定し、誰にでも手に取りやすくしている。また、地震等の災害時に本が落ちてきても多くの本が落ちにくいようにしている。
- ・車いす用読書スペースを設置し、利用しやすいようにしている。

（７）ポイント

- ・様々な障がい種に対応できるように設計されている。

3-1 大空町教育委員会

(1) 調査の概要

調査日	令和4年(2022年)10月25日(火)
場 所	大空町教育委員会
内 容	大空町における障がい者の生涯学習の実施状況等
方 法	担当者へのヒアリング
協力者	大空町教育委員会教育長 関谷 正樹 同 生涯学習課主幹 歌丸 庸介
調査員	北海道立生涯学習推進センター主幹 長岡 広之 同 主事 磯崎 麻美

(2) 事業の概要

- ・スポーツを通じた交流(高齢者や子どもを含む)を実施している。
- ・マラソン大会に障がい者の方が出場している。
- ・文化祭に障がい者施設からの作品を出展している。
- ・学校の総合的な学習の時間において、福祉関係者による障がい等についてのレクチャーを実施している。

(3) 運営体制

- ・町の福祉部局、社会福祉協議会と連携し、事業を行っている。
- ・窓口は福祉部局としているが、事業の具体は協働して決定している。
- ・老人クラブ連合や子育て支援センターの利用者に声を掛け、共催として事業を行っている。

(4) 具体的な活動

- ・オリンピックやパラリンピックの影響もあり、町民が身近に感じられるものとして、ボッチャなどスポーツを通じた交流が行われている。
- ・高齢者大学に参加している方や子どもも取組みに参加している。
- ・10月に行われるマラソン大会に、精神障がいのある子どもが出場する。
- ・11月に行われる文化祭において、障がい者施設から絵画や創作物などの作品を出展してもらう。
- ・日頃から創作活動を行っている文化団体と障がい者施設とのネットワークがある。
- ・学校において、総合的な学習の時間で「福祉」を扱う際に、福祉部局職員や福祉関係者が、障がいや車椅子の特性などについてレクチャーする取組みを行っている。

(5) 成果・工夫点

- ① 福祉部局、社会福祉協議会、教育委員会の間で線引きせずに、それぞれの立場からアプローチを行いながら、連携して事業を行っている。
- ② 福祉部局の職員が学校の授業において、障がいについてレクチャーする機会を設けるなど、町の福祉部局と教育委員会の生涯学習部局とが連携しながら活動を進めている(生涯学習課主幹は以前福祉部局に4年間在籍していた経験がある)。

(6) 課題

- ・障がい者の生涯学習事業に限らないが、コロナ禍により、事業の継承が困難である。

(7) ポイント

- ① パラスポーツを通して、高齢者や子どもを含めた一般町民が交流する取組が行われている。
- ② 文化祭や創作活動を通して、一般町民が活動を理解する機会が創出されている。
- ③ 町の福祉部局や社会福祉協議会等と連携しながら事業が行われている。

(8) 考察

- ・スポーツ及び文化の各分野で、一般町民が活動を理解する機会があるのは重要なことである。
- ・福祉部局との連携により、学校で児童生徒を対象とした取組があるのは大切なことである。

第6章 実証研究「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」

- 1 調査の目的
- 2 プログラムの概要
- 3 調査の概要
- 4 調査の結果
- 5 考察（成果と課題）

第6章 実証研究「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」

1 調査の目的

障がい者の生涯学習を推進していく上で、学びを身近で支える教育行政の果たす役割は重要とされている。本研究は、障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行う。

2 プログラムの概要

(1) 目的

障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行う。

(2) 実施日

- ①令和5年（2023年）2月11日（土）～12日（日）1泊2日
- ②令和5年（2023年）2月13日（月）

(3) 活動場所

- ①北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄（十勝管内足寄町）
- ②北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸（釧路管内厚岸町）



雪に覆われたネイパル足寄

(4) 参加実績

- ①足寄：5名（障がいのある方4名、介助者1名）
- ②厚岸：5名（障がいのある方3名、介助者2名）



ネイパル厚岸のアイスクャンドル



(5) 運営者

①足寄：10名

- ・北海道立生涯学習推進センター職員 3名
- ・北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄職員 2名
- ・北海道教育庁十勝教育局職員 1名
- ・サウナ普及団体 3名
- ・保健師 1名

②厚岸：11名

- ・北海道立生涯学習推進センター職員 1名
- ・北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸職員 5名
- ・北海道教育庁社会教育課職員 1名
- ・サウナ普及団体 3名
- ・看護師 1名

(6) プログラムデザイン

①足寄

1日目

	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	17:30	19:00	20:00	21:00	22:00
	開会式	ブレイク アイスク	オリエン テーション	入室 活動 準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	軽スポーツ ポッチャ 体験	就寝 準備	就寝

2日目

6:30	7:30	8:30	9:00	11:00	11:30	12:30
起床・ 布団消毒	朝食	部屋 清掃	コーヒー教室	ふりかえり	昼食	閉会式

- ・体験活動①「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動
- ・体験活動②「ポッチャ」：ポッチャ体験を通して参加者同士の交流を図る軽スポーツ活動
- ・体験活動③「コーヒー教室」：リラックス効果のあるコーヒーの学び（コーヒーについて）とハンドドリップ実践の講座型体験活動。

②厚岸

15:30	15:45	16:30	16:35	16:50	17:30	18:30	19:00	19:30
開会式	軽い運動体験	活動準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	ふりかえり	閉会式

- ・体験活動①「軽い運動体験」：「体を動かす心地よさ」を体感する軽い運動体験
- ・体験活動②「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動

（７）実施の準備・運営と指導

プログラムを運営・指導するにあたって、次の事項に留意した。

- ・コロナ感染症対策：参加者のマスク着用、検温、手指消毒を徹底するとともに、活動の際はソーシャルディスタンスを保つなど感染症対策を講じた。
- ・ヒートショック対策：事前に参加者の健康チェックを行うとともに、活動前には入浴して体を温めてからサウナを利用するようにした。また、看護師を配置するなど安全面の確保に向けて配慮した。
- ・障がい種の把握：参加者を対象に事前調査を実施し、障がい種や体験活動の経験の有無など、参加者一人一人の特性を把握し、施設の利用やプログラムの運営の際に必要な支援について配慮した。
- ・事前踏査：運営者とサウナ業者が活動場所を事前に踏査し、安全に活動できるような環境を整備した。また、運営者がオンラインを活用して事前に綿密な打合せを行って当日に臨んだ。

３ 調査の概要

（１）調査の概要

「インクルーシブキャンプ In ほっかいどう」実証研究（青少年教育施設における事業の実証）

- ・社会教育施設における障がい者への支援体制・状況
- ・社会教育施設における体験活動プログラムの実証
- ・ヒアリング終了後、調査報告書としてまとめる。

（２）調査時期

①事前調査

事業実施約３週間前に、参加者（障がい当事者）を対象に質問紙調査を実施。調査用紙をメールで送付し回答を得る。項目は、参加者に関する基本情報。

②事後調査

プログラム終了後、ふりかえりの時間に参加者及び介助者を対象に質問紙を配付し、回答を得る。また、必要に応じてヒアリングを行う。

（３）調査対象

- ・29歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・29歳男性（中札内村在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・48歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・車いす使用）
- ・56歳男性（岩見沢市施設）：身体障がい（脳性麻痺・車いす使用）
- ・47歳男性（厚岸町施設）：知的障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：発達障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：精神障がい、発達障がい

（４）調査員（研究員）

北海道立生涯学習推進センター職員

(5) 調査内容

①事前調査

質問項目

- ・障がい種及び診断された時期
- ・特別支援学校通学経験
- ・体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容
- ・普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット
- ・これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいという要望
- ・普段実施している体験活動の種類や内容

① 事後調査

- ・障がい当事者の視点から見たプログラム内容についての満足度、感想、課題点など
- ・青少年体験活動支援施設を利用した感想、課題点など

4 調査の結果

(1) 障がい当事者に関する基本情報

項 目	調査対象者A	調査対象者B
①障がい種別	身体障がい (肢体不自由：独歩)	身体障がい (肢体不自由：独歩)
②性別・年齢	男性・29歳	男性・29歳
③職種	事務職	公務員
④居住地域	帯広市	中札内村
⑤障がいに診断された時期	先天性	先天性
⑥特別支援学校通学経験	有り（高等養護学校）	有り（高等養護学校）
⑦体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容	熱気球乗車体験 乗馬（トレッキング体験） (障がいによっては、引き馬体験)	ウインタースポーツ (スキー、スノーボード等)
⑧普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット	・釧路湿原（ネイチャーセンター） ・道立美術館・市立図書館 ・道内の道の駅 等	・札幌芸術の森美術館見学 ・支笏湖水濤まつり見学 ・洞爺湖水瀑まつり見学 ・ジブリの森美術館見学
⑨これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいこと	困っていること、やってほしいということは特段ない。 両手で持ったり、支えたりすること等はできるが、麻痺のある右手単独の行動は難しい。	バリアフリー対応の飲食店の入り口が狭く、車椅子使用時にお店の選定が困難であった。 (事前にお店に連絡し、お店に確認が必要)
⑩普段実施している体験活動の種類、内容	不定期に市内のプールに行きスイミング	温泉施設にいき、サウナ活動
⑪その他	無し	冬のテントサウナを体験するのは初めて

項 目	調査対象者C	調査対象者D
①障がい種別	身体障がい (肢体不自由：車椅子必要)	身体障がい (脳性麻痺：車椅子必要)
②性別・年齢	男性・48歳	男性・56歳
③職種	事務職	施設入所利用者
④居住地域	帯広市	岩見沢市
⑤障がいに診断された時期	24歳(運動中の怪我で脊髄損傷)	先天性
⑥特別支援学校通学経験	無し	有り(高等養護学校)
⑦体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容	・わかさぎ釣り ・キャンプ	バーベキュー
⑧普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット	・タウシュベツ川橋梁地蔵線巡り ・よつばアリーナ十勝	プラネタリウム
⑨これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいこと	最近、道の駅で車椅子マークスペースにカーポートが設置されるようになったが、大きな柱が圧迫感があり、狭くて使いにくい	手すり片方しかない所が多い
⑩普段実施している体験活動の種類、内容	・車いすバスケットボール ・カーリング ・チェアスキー ・ソフトボール	・車いすマラソン ・クロスカントリースキー
⑪その他	無し	サウナに入ったこと有り

項 目	調査対象者E	調査対象者F	調査対象者G
①障がい種別	知的障がい	発達障がい (アスペルガー症候群)	精神障がい、発達障がい(AD/HD、アスペルガー症候群)
②性別・年齢	男性・47歳	男性・19歳	男性・19歳
③職種	就労継続支援(B型)	就労継続支援(B型)	就労継続支援(B型)
④居住地域	厚岸町	厚岸町	厚岸町
⑤障がいに診断された時期	34歳	4歳	
⑥特別支援学校通学経験	無し	有り(支援学校)	有り(支援学校)
⑦体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容	愛冠岬の鐘	フォトラリー	モニターが終わってもサウナ体験
⑧普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット	ネイパル厚岸	ネイパル厚岸	無し
⑨これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいこと	無し	無し	無し
⑩普段実施している体験活動の種類、内容	バレーボール、バドミントン、卓球	フリスビー	ボッチャ
⑪その他	無し	無し	無し

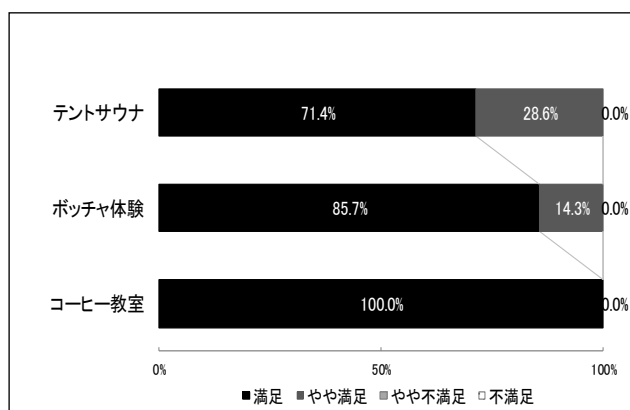
（２）障がい当事者の視点から見たプログラム内容についての満足度、感想・課題点等

ア 満足度

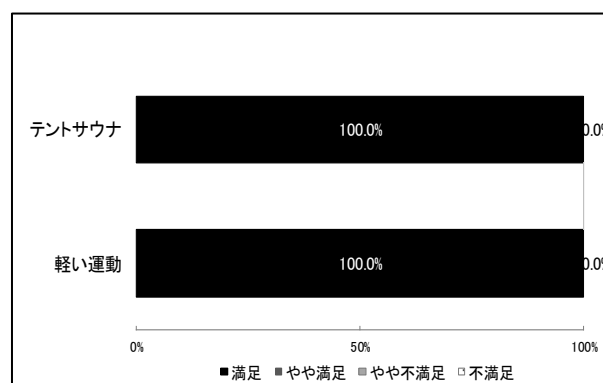
参加者を対象に体験活動プログラムについての満足度に関するアンケート調査を行ったところ、下図のような結果が得られた。

ネイパル足寄における「テントサウナ」については、「満足」と回答した人が71.4%、「やや満足」が28.6%。「ボッチャ体験」については、「満足」が85.7%、「やや満足」が14.3%。「コーヒー教室」については、全員が「満足」と回答しており、いずれのプログラムも満足度の高い結果が得られた。

一方、ネイパル厚岸においては、テントサウナと軽い運動のいずれも満足度が100%だった。



体験活動プログラムについての満足度（足寄）n=7



体験活動プログラムについての満足度（厚岸）n=3

イ 感想等

①テントサウナ体験（共通）

- ・障がい者と健常者と一緒に楽しむことができたのでよかった。
- ・冬のテントサウナ良かったです。夏場だと車椅子も動きやすく、水風呂も入れるのかなと思いました。
- ・ようやく車椅子でサウナ体験ができました。
- ・はじめての体験でよかったと思います。固定した椅子があったほうがよかったと思います。
- ・はじめての経験です。テントサウナ。
- ・また体験してみようと思いました。
- ・どの活動も障がいの有無に関係なく行うことができ、満足できた。（介助者）
- ・中も広く利用しやすかった。肢体不自由な方でも座りやすい椅子があると良かった。（運営者）
- ・参加者の笑顔がみられて良かった。寒さにより参加者の血圧が上昇するのが課題。（保健師）



屋外に設置した大小2種類のテントサウナ（厚岸）



消防署員による事前の点検（厚岸）



テント内でサウナに関する講義を受講（厚岸）



温まった体を森の中でクーリング（厚岸）



車椅子利用者がテントサウナを体験（足寄）



温まった体を水風呂でクーリング（足寄）

②ボッチャ体験（ネイパル足寄）

- ・障がい者と健常者が一緒に楽しむことができたのでよかった。
- ・就寝前の活動として良かったです。
- ・改めてボッチャの楽しさ、奥深さを知りました。
- ・はじめての体験だったので楽しく皆さまと触れ合う機会もできよい体験でした。
- ・障がい者スポーツとして皆で楽しむことができ良かった。（介助者）



3人1チームでボッチャの試合（足寄）



白熱した試合を展開（足寄）

③コーヒー教室（ネイパル足寄）

- ・障がい者と健常者が一緒に楽しむことができたのでよかった。
- ・コーヒーの入れ方により味が変わり、奥が深いなと感じました。
- ・同じ豆、水を使っても味が違うことに難しさと楽しさがわかりました。
- ・コーヒーが好きなのでよい体験ができて良かったです。
- ・身近なコーヒーという体験ができ、とても楽しめたと思います。（介助者）



満保所長によるコーヒー教室（足寄）



コーヒーのドリップ体験（足寄）

④軽い運動（ネイパル厚岸）

- ・きつかったけど楽しかった。
- ・楽しかったです。
- ・体全体を使ったうんどう。



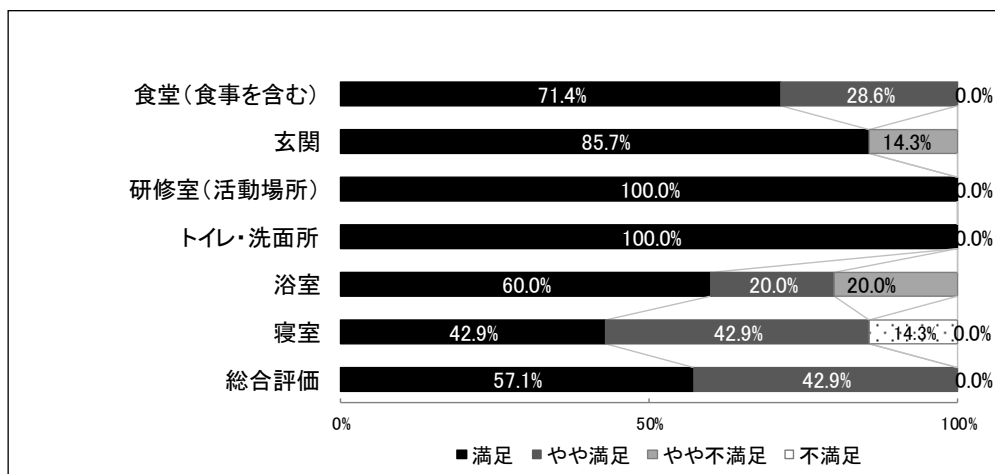
三間所長による軽運動体験（厚岸）



サウナ体験前に軽い運動で体を温める（厚岸）

（３）青少年体験活動支援施設を利用した満足度、感想・課題点等

ア ネイパル足寄利用満足度（宿泊利用）



施設についての利用満足度（足寄）n=7

イ ネイパル足寄感想等（宿泊利用）

1. 食堂（食事を含む）

- ・品数が多く、美味しかったです。
- ・夕食はとてもボリュームがありありがたいです。
- ・食堂は広く利用しやすかった。（食事の）量もあり、満足できた。（介助者）
- ・若干塩分が多い。（保健師）

2. 玄関

- ・冬なので雪がありがたいへんでした。

3. 研修室（活動場所）

- ・場所が広く活動しやすかった。

4. トイレ・洗面所

- ・トイレ、洗面所が近くにあり、数ヶ所あるため、利用しやすかった。（介助者）

5. 浴室

- ・車椅子が入りずらそうにしていた時があった。
- ・スロープやシャワーチェアもあり入浴が楽しめました。
- ・健常者目線だが、車椅子ユーザーが多いと、脱衣所はせまいように感じる。
- ・車椅子でも入りやすいスロープがあり、利用しやすかった。
- ・浴槽の段差が肢体不自由の方でも入りやすいと良かった。床もクッション性が良い。（介助者）

6. 寝室

- ・寒すぎです。厚着して頭までふとんをかぶっていました。
- ・ベッドが低く、乗り移りはしやすかったと思います。（介助者）
- ・清潔で良かった。（保健師）

7. 総合評価

- ・スポーツ合宿（車いすバスケ）にも使用することができそうです。



車椅子利用者が利用した寝室（足寄）



多目的トイレ（足寄）

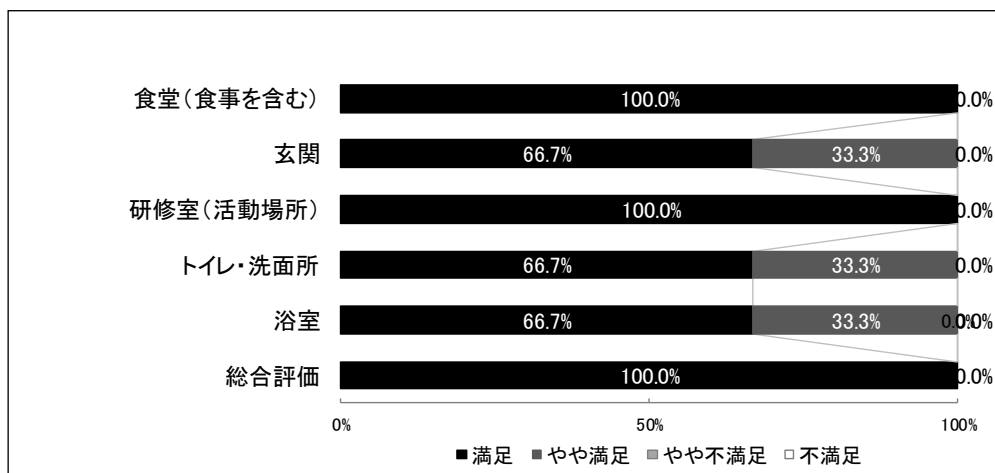


セルフサービスによる食事（厚岸）



食堂の配膳（足寄）

ウ ネイパル厚岸利用満足度（日帰り利用）



施設についての利用満足度（厚岸）n=3

エ ネイパル厚岸感想等（日帰り利用）

1. 食堂（食事を含む）

- ・おいしかった。
- ・ちょうどよい量でした。
- ・味つけが好みだった。

2. 玄関

- ・広くて良かった。
- ・広くて良かったです。
- ・くつの置場所に若干迷った。

3. 研修室（活動場所）

- ・いっぱい動けた。
- ・きれいで使いやすかったです。

4. トイレ・洗面所

- ・広くて良かったです。
- ・キレイなトイレでした。
- ・水洗ウオッシャーだったのでよくなったかなあと思う。

5. 浴室

- ・きれいでした。お湯の温度はちょうど良かったです。
- ・個人的には初めて入りました。
- ・広い所だった。ぬるめでした。

6. その他

- ・部屋の温度がちょうど良かった。

7. 総合評価

- ・良かったです。
- ・サウナ体験が出来る所。
- ・ちょくちょく使わせてもらってます。体育館も広いので良いと思います。

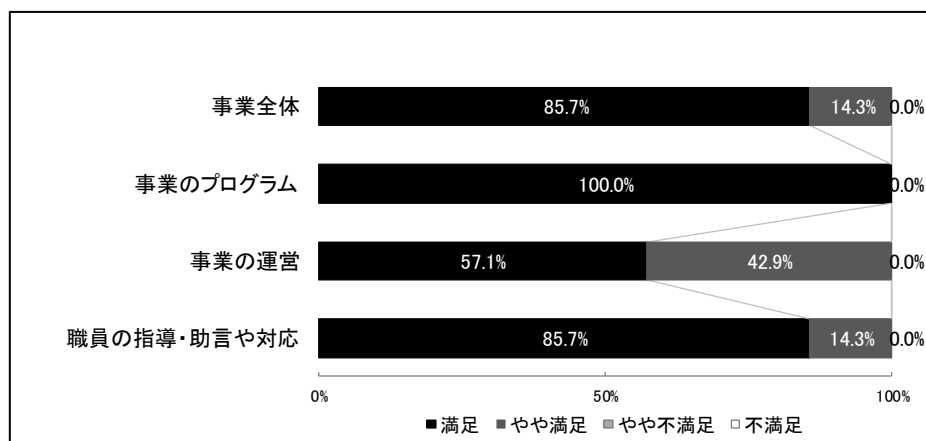
(4) 調査を通して得られた結果

ア 体験活動プログラムについて

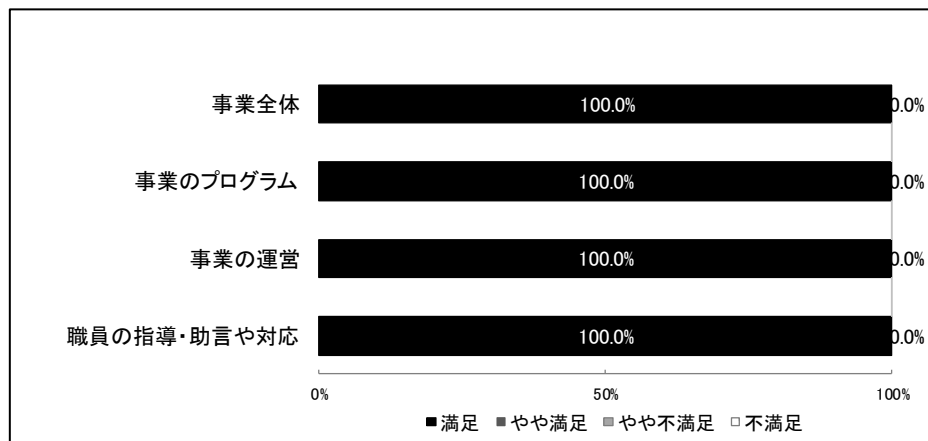
- ・テントサウナについて、中が広く、車椅子の利用者でも満足する体験ができた。課題としては、固定した椅子の設置と水風呂への対応が挙げられる。
- ・ボッチャ体験について、集団で楽しむことができ、参加者同士の触れ合いの機会となった。また、ルールや競技の内容についてもわかりやすく、初心者や障がい種にあまり関係なく競うことができるので、満足度の高い活動となった。
- ・コーヒー教室について、入れ方により味が変わることを体験したが、その味には障がいの有無に関わらず個人差があることがわかり、非常に満足度の高い活動となった。
- ・軽い運動については、知的障がい者や精神障がい者にとって参加しやすく、屋外にあるテントサウナの体験活動の前に適度に体を温めることができた。

イ 施設について

- ・食堂については、車椅子利用者にとっても広くて利用しやすかったようだが、手洗い場については、水道の蛇口の高さは適切でも、その下は、車椅子が入れるスペースがほしいとの意見があり、改善が必要である。
- ・玄関については、バリアフリー化されていても、冬季の積雪時には車椅子利用者にとっては自力での移動が困難であり、介助が必要不可欠である。
- ・トイレについては、車椅子利用者が利用できる多目的トイレが複数設置されており、利用しやすかったとの感想が寄せられた。
- ・浴室については、スロープやシャワーチェアなど車椅子利用者が利用しやすい環境が整備されていたものの、脱衣所が少しせまく、浴槽の段差の解消や床のクッション性の確保など課題点が明らかになった。
- ・寝室については、ベッドが低く車椅子利用者でも乗り移りがしやすかった。
- ・総合的に、車椅子利用者にとって満足度の高い結果が得られた。今後は、車いすバスケなどのスポーツ合宿にも使用できるのではとの参加者の意見を踏まえ、より多くの障がい者の方に利用していただき、障がいの有無に関わらず利用できる施設を目指し、更なる改善が望まれる。



事業の実施内容についての満足度（足寄）n=7



事業の実施内容についての満足度（厚岸）n=3

5 考察（成果と課題）

（１）成果

- ・前年度はコロナ禍において、当事者の方を対象にした実際の体験活動を実施することができなかったが、今回はコロナ対策を十分に行った上で、障がい当事者による実地体験を通じた調査を実施し検証できたことは大きな成果である。
- ・参加した当事者の障がい種は、肢体不自由者のうち、車椅子利用者とそうでない人、知的障がい者や精神障がい者などであり、多様な障がい者の視点から意見を聞くことにより、実施した事業の検証を深めることができた。
- ・身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいなど障がいの特性を踏まえた配慮すべき内容を確認することができた。
- ・施設の日帰り利用だけでなく、宿泊を体験してもらうことにより、寝室や洗面所など施設の障がい者への対応等について当事者から意見を聞くことができ、障がい者へ対応した施設整備の課題点が明らかになった。
- ・障がい者は、健常者と一緒に活動することを望んでいることがわかった。障がい者はこれまで障がい者だけで活動に参加することが多かったが、今回健常者と一緒に活動し、その喜びを感じることができた。このことから、インクルーシブの重要性が明らかになった。
- ・体験活動を実施する場合は、施設の設備等の整備だけでなく、運営スタッフなどの十分な人的な支援体制が必要であることがわかった。
- ・参加者の特性を事前に調査して把握することにより、施設の必要な環境整備や人的な支援体制を準備することができ、安全かつ参加者の満足度の高いプログラムを提供することが可能になることがわかった。

（２）今後の課題

- ・様々な障がいを持つ人を対象にしたプログラムを開発するためには、今回対象としなかった他の障がい種、例えば、視覚障がいや聴覚障がいを持つ当事者を対象に調査を実施し、検証する必要がある。
- ・参加者から障がい者のスポーツ合宿での利用について提案があったことから、青少年教育施設など社会教育施設において、障がい者スポーツに関するモデルプログラムを開発し検証する必要がある。

ある。

- ・各地域で障がい者の取組を支援する人材の増加、普及啓発や人材育成に向けた取組を行うなど、障がい者の学びのニーズを踏まえた合理的配慮を含む必要な支援体制の構築を図る。
- ・障がい者と健常者が一緒に活動するインクルーシブによる生涯学習活動や自然体験活動等の事業を各地で実施するとともに、それを検証しながら、障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる共生社会の実現を目指す。

資 料

- 1 令和2年度市町村における「障がい者の生涯学習」に関わる実態調査票
- 2 令和4年度生涯学習推進体制の整備状況調査票
- 3 令和4年度生涯学習に関する住民の意識調査票
- 4 令和4年度インクルーシブキャンプInほっかいどう
～すべては「ととのう」ために～事後アンケート調査用紙（足寄）
- 5 令和4年度インクルーシブキャンプInほっかいどう
～すべては「ととのう」ために～事後アンケート調査用紙（厚岸）

市町村における「障がい者の生涯学習」に関わる実態調査(調査票調査)
【調査票】

【調査の目的】

- 北海道教育委員会では、障がい者の生涯学習を推進するため、文部科学省の「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究事業」を受託し、地方公共団体を中心とした地域コンソーシアム形成モデルの構築を進めているところです。
- 本調査は、障がい者が行う学習活動に対して、市町村教育委員会等が実際に行っている支援、学習者等が求める支援等について調査し、障がい者の学習支援を含むモデルプログラムの開発や効果的に学習を支援するための具体的な体制の構築に資することを目的に行うものです。御協力をお願いいたします。

【記入の際の留意点】

- 回答は、貴市町村教育委員会の生涯学習・社会教育担当職員（社会教育主事等）が代表して、調査票に御記入ください。なお、「市町村名」「記入者職名・氏名」を忘れずに御記入ください。
- 本調査票には、セルや行の挿入、変更を行わないようにしてください。（「6」については、必要がある場合、「※」の指示通りに挿入してください。）

【調査票の返送】

- 調査票は、記入漏れがないことをお確かめのうえ、令和2年10月16日（金）までに、北海道立生涯学習推進センターに「本調査票（Excel形式添付）」で御回答ください。
- 調査票のファイル名の（ ）内には、市町村名を入れて提出してください。

【調査結果】

- 本調査の結果は、下記調査実施機関で集計・分析し、今後の「障がい者の生涯学習」の推進に向けた資料とさせていただきます。なお、御回答いただいた調査内容については、個人情報等、適切に取り扱い、目的以外で使用することはありません。また、集計結果は改めて市町村に提供します。
- 本調査の回答をもとに、「障がい者の生涯学習」の内容をより詳細に把握するための「聞き取り調査」の対象とさせていただく場合がありますので、御承知おきください。

【調査実施機関・問い合わせ先・調査票提出先アドレス】

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課生涯学習センターグループ
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 8階
TEL：011-231-4111（内線36-325） FAX：011-261-7431
担 当：尾山、田尾
e-mail：shougai.12@pref.hokkaido.lg.jp

【基本情報】

市 町 村 名				
所属部局担当				
連 絡 先	TEL		FAX	
	e-mail			
記入者職名・氏名	職名		氏名	

「障がい者の（障がい者も参加可能な）生涯学習活動」に関わる事業について

本調査においては「障がい者の（障がい者も参加可能な）生涯学習活動」に関わる事業を以下のように整理していますので、回答の際の参考としてください。ただし、これに合致するものであっても学校の教育課程に位置付けられているものは除いてください。

○内容として想定しているもの

①個人の生活に必要な知識・スキルを身に付けるもの

②社会生活に必要な知識・スキルを身に付けるもの

③職業において必要な知識・スキルを身に付けるもの

④スポーツ

⑤文化的な活動

⑥余暇・レクリエーション活動

⑦教養的な内容

⑧社会問題や時事問題に関する内容

⑨情報分野の知識・スキルを身に付けるもの

1 「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」に関わる事業を主催していますか

※ どちらかに○を記入してください。

	回答欄
a 主催している	
b 主催していない	

2 「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業を主催していますか

※ どちらかに○を記入してください。

※ 本調査における「障がい者も参加可能な生涯学習活動」に関わる事業とは、「事前に障がい者が参加することを想定して、情報保障やアクセシビリティ（年齢や障がいに関係なく、だれでも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること）等について検討してあるもの」を指します。

	回答欄
a 主催している	
b 主催していない	

3 教育委員会以外の部局で「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」や「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業を主催していますか

※ いずれかに○を記入してください。

※ 「a」もしくは「b」と回答した場合は、連携・協力の内容の該当箇所に○を記入してください。

	回答欄		連携・協力の内容	回答欄
a 保健福祉部局が主催している		}	広報	
b その他の部局が主催している			会場提供（減免等含む）	
c 主催している部局はない			企画会議等への参画	
			事業運営支援	
			その他（ ）	
			協力関係はない	

- 62 -

- 4 教育委員会主催以外の域内の「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」や「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に関わる事業の概要を把握していますか
- ※ どちらかに○を記入してください。
- ※ 事業を「把握している」場合はその主催者に該当するすべての項目に○を記入してください。

回答欄

a 把握している	
b 把握していない	

右を回答後「5」へ

主催者

回答欄

障がい当事者の団体	
ボランティア団体	
PTA	
親の会	
その他の社会教育関係団体	
小・中・高等学校（教育課程での実施は除く）	
特別支援学校（教育課程での実施は除く）	
大学	
社会福祉協議会	
社会福祉法人	
NPO法人	
企業	
国や道の機関	
その他	

「6」へ（「5」は回答しないでください）

- 5 4で「a把握している」と回答した教育委員会主催以外の域内の「主に障がい者を対象とした生涯学習活動」や「障がいの有無に関わらず参加可能な生涯学習活動」に連携・協力していますか
- ※ どちらかに○を記入してください。
- ※ 活動に「協力している」場合はその主催者に該当するすべての項目に○を記入してください。
- ※ また、その協力の内容について、該当するすべての項目に○を記入してください。

回答欄

a 協力している	
b 協力していない	

主催者

回答欄

障がい当事者の団体	
ボランティア団体	
PTA	
親の会	
その他の社会教育関係団体	
小・中・高等学校（教育課程での実施は除く）	
特別支援学校（教育課程での実施は除く）	
大学	
社会福祉協議会	
社会福祉法人	
NPO法人	
企業	
国や道の機関	
その他	

連携・協力の内容

回答欄

広報	
会場提供（減免等含む）	
企画会議等への参画	
事業運営支援	
その他（ ）	

6 貴市町村にある社会教育施設の状況について「◎」、「○」、「●」、「△」、「▲」、「×」で御回答ください。

(障がいごとの受入れの可否を問うものではありません。)

- 凡例 ◎・・・障がいに対して対応できる設備が充実しており、支援ボランティア等の受入体制もある
○・・・障がいに対して対応できる設備は充実しているが、支援ボランティア等の受入体制がない
●・・・障がいに対して対応できる設備があり、支援ボランティア等の受入体制もある
△・・・障がいに対して対応できる設備があり、支援ボランティア等の受入体制がない
▲・・・障がいに対して対応できる設備はないが、支援ボランティア等の受入体制はある
×・・・障がいに対して対応できる設備がなく、支援ボランティア等の受入体制もない

※ 欄が不足する場合は、一番右の欄の右に列を足して記入してください。

※ 対応できる設備について

- 例) 身体障がい(視覚)・・・点字ブロック、音声ガイドを整備している
身体障がい(聴覚)・・・映像資料へ字幕挿入をしている
身体障がい(肢体不自由)・・・施設をバリアフリー化している 等

※ 対応できる設備や支援ボランティア等の受入体制について

- 例) 身体障がい(聴覚)・・・手話通訳者等との協力体制がある
身体障がい(病弱)、知的障がい、他・・・支援ボランティアサークルがある 等

障害の種別	施設名	立例 博物 館 町												
身体障がい(視覚)		◎												
身体障がい(聴覚)		○												
身体障がい(肢体不自由)		●												
身体障がい(病弱)		△												
知的障がい		▲												
精神障がい		×												
発達障がい		○												
その他		×												

7 「障がい者の生涯学習」に関する事業等の情報を域内の住民に提供していますか

- ※ どちらかに○を記入してください。
※ 事業を「提供している」場合はその方法に該当するすべての項目に○を記入してください。

回答欄		提供の方法		回答欄
a 提供している		広報誌への掲載		
b 提供していない		ホームページへの掲載		
		SNSの活用		
		チラシ、パンフレット等の配布		
		その他		

8 市町村が策定する教育全般に関する計画（教育振興基本計画等）に障がい者の生涯学習支援に関わる施策や事業の記載はありますか

- ※ どちらかに○を記入してください。
- ※ ある場合は、記載されている計画等の具体的な名称を記載してください。

回答欄

a 記載がある	
b 記載がない	

→

計画等の具体的な名称（代表的なものを5つまで）

9 教育委員会職員を対象に「障がい者の生涯学習活動」に関する研修を行っていますか

- ※ どちらかに○を記入してください。
- ※ 「a 行っている」と回答した場合はその時期や回数を記入してください。

回答欄

a 行っている	
b 障がいの理解等に関する研修は行っている	
c 行っていない	

→

時期（○月頃等）

回数

10 障がい者の生涯学習活動を推進する上での課題は何ですか。 上位5つを選んで当てはまるものに○をつけて回答してください。課題がない場合は「課題なし」に○をつけるだけで結構です。

回答欄

①課題なし	
②生涯学習活動に関するニーズの把握	
③生涯学習活動に関する体制の整備	
④生涯学習活動に関する事業・プログラムの開発	
⑤生涯学習活動の機会の充実	
⑥生涯学習活動に関する情報の提供	
⑦生涯学習活動を行う施設・設備等の整備	
⑧生涯学習活動に係る講師及び指導者の確保・養成	
⑨生涯学習活動に係るボランティアの確保・養成	
⑩特別支援教育や障がい者福祉等に関する専門的知見を有する生涯学習活動に係るコーディネーターの配置	
⑪生涯学習活動に係る専門職員（社会教育主事等）の専門性の向上	
⑫特別支援学校との連携	
⑬関係部局や関係機関・団体等との連携（特別支援学校を除く）	
⑭その他（ ）	

【入力に当たっての留意事項】

- 1 令和4年6月1日現在の状況を入力ください。
- 2 このセル（網掛け）のみ入力してください。前年調査から修正する部分は赤字で表示してください。
- 3 行・列の挿入はしないでください。前年入力済の欄を空欄とする場合はセルの色を黄色に変更してください。
- 4 項目によっては、ドロップダウンリストで選択する場合があります。

I 各種宣言について

	有無	宣言の名称	宣言年度
1 「生涯学習推進のまち」など、生涯学習の推進に係る宣言			
2 「生涯スポーツのまち」、「健康づくりのまち」などの推進に係る宣言			

II 各種構想・計画の策定状況について（各項目最大3つまで）※ホームページに掲載がある場合はURLを欄外右に記載

	有無	構想・計画等の名称	施行年度	終了年度
1 生涯学習の推進に向けた構想・計画（基本構想・基本計画等）				
2 社会教育の推進に向けた構想・計画（中期計画・単年度計画等）				
3 スポーツ活動の推進に向けた構想・計画				
4 文化芸術活動の推進に向けた構想・計画				
5 読書活動の推進に向けた構想・計画				
6 その他の構想・計画等				

III 生涯学習推進に係る附属機関・外部組織等の設置について

	有無	組織等の名称	人数	設置根拠
1 生涯学習審議会				
2 社会教育委員の会議				
3 スポーツ審議会				
4 文化審議会				
5 その他の生涯学習推進に係る外部組織等				

IV 生涯学習推進に係る行政組織・体制等について

	有無	組織等の名称
1 生涯学習課、社会教育課等、教育委員会の所管部署		
2 首長部局で生涯学習を所管している場合の所管部署		
3 生涯学習推進本部・会議等、行政内の連携を促進する組織・会議等		
4 生涯学習推進センター等、調査・研究機関		

V 子供たちを支える生涯学習活動の取組について ※「主な取組や事業」は代表例や特徴的なものを1つ入力してください。

	教育委員会		首長部局		関係団体・民間等	
	有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業
1 子供たちに対する自然体験、ボランティア等の体験活動の機会						
2 読書環境の整備や読書活動を支援する人材の育成などの取組						
3 子供たちが異年齢・異世代とつながる場などの居場所づくりの取組						
4 地域住民が学校教育や放課後活動を支援する取組						
5 望ましいメディアへの接し方やコミュニケーションなど、子供たちの今日的な課題を学ぶ機会						
6 子育てや育児に関する学習の機会						
7 アウトリーチ型の家庭教育・子育て相談などの取組						
8 家庭教育サポート企業と連携して実施する家庭教育を支援する取組（子育て環境づくり等）						

Ⅶ 現代的課題等に関する学習機会について

※「主な取組や事業」は代表例や特徴的なものを1つ入力してください。

		教育委員会		首長部局		関係団体・民間等	
		有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業	有無	主な取組や事業
1	環境に関する学習 ・地域の自然環境やその保全、 「木育」など						
2	食に関する学習 ・「食育」や食をとおした地域の 活性化など						
3	国際理解に関する学習 ・諸外国の人々とお互いの文化、 習慣等の理解など						
4	超高齢社会に関する学習 ・生活習慣病の予防、日常の介護 など						
5	防災に関する学習 ・自然災害等の危険性や安全な行 動など						
6	男女平等参画に関する学習 ・女性の人権尊重やハラスメント など						
7	安全・安心な生活に関する学習 ・疾病、犯罪、交通事故等の生 命・健康や防犯ボランティアなど						
8	消費生活に関する学習 ・悪質商法、訪問販売、金融など						
9	人権に関する学習 ・ドメスティックバイオレンス、 児童虐待、ネットトラブルなど						
10	障がい者福祉に関する学習 ・福祉制度や福祉のまちづくりな ど						
11	地域活動に関する学習 ・ボランティアや地域活動など						
12	子どもの貧困に関する学習 ・家庭が抱える経済や生活環境、学習 機会の格差の問題など						

Ⅶ 障がい者の生涯学習の推進について

(1) 貴教育委員会の域内で住民が参加できる障がい者の生涯学習活動に関する以下の情報を収集・把握していますか。

	該当するものに○
情報を収集・把握している	
情報を収集・把握していない	

(2) (1)で「把握している」と回答した場合、下記で該当するものを選択してください。（複数回答可）

	該当するものに○
1 教育委員会の主催事業（出先機関が主催するものを含む）	
2 首長部局の主催事業	
3 教育委員会が後援・関与する事業	
4 国が行う事業	
5 都道府県が行う事業	
6 特別支援学校等の学校による事業	
7 大学等による事業	
8 その他（社会福祉法人、NPO法人、民間企業等）	

Ⅷ 生涯学習推進上の課題について

課題項目	程度
1 住民の生涯学習に対する意識やニーズの把握	
2 住民に対する生涯学習の普及・啓発	
3 行政職員に対する生涯学習の普及・啓発	
4 生涯学習担当職員の増員や予算の増額などの人的・物的整備	
5 生涯学習を推進する施設や設備の整備	
6 学習情報の提供や相談体制の整備	
7 生涯学習推進協議会等、生涯学習を推進する住民組織の整備・充実等	
8 生涯学習推進本部等、生涯学習を推進する行政内組織の整備・充実等	
9 学校・家庭・地域の連携の促進	
10 他の市町村にはない特色のある事業、施策の創出	
11 生涯学習指導者やリーダー的人材の養成	
12 生涯学習を推進する団体・サークルの育成	
13 学習した成果を生かす場や方策の検討	
14 その他	

5 極めて重要である
4 重要である
3 どちらともいえない
2 あまり重要ではない
1 全く重要ではない

具体的に記入ください

令和4年度(2022年度) 生涯学習に関する住民の意識調査



生涯学習とは…

「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など、様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。また、人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を指すものとして、「生涯学習社会」という言葉も用いられます。（文部科学白書2018より引用）

アンケート調査にご協力をお願いいたします。



👉 アンケートフォーム

このアンケート調査は、Googleフォームによる回答が可能です。左のQRコードをスマートフォン等で読み込むことにより、アンケートフォームから同じ調査に参加いただけます。

ウラ面を見ながら回答してください👉

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

ボランティア活動



野球やサッカーなどの
スポーツ活動



将棋教室



学校での勉強



ぜんぶ

「生涯学習」 です。



ヨガ



研修会や講習会への参加

インターネット講座



家で読書



語学学習



料理教室



自治会活動



書道教室



自然体験



美術館で作品鑑賞



図書館での調べ物



学校での勉強も、いろいろなスポーツに挑戦することも、会社でスキルアップのために研修を受けることも、キャンプなどの自然体験も、地域清掃や防犯パトロールなどのボランティア活動も、習い事、将棋や囲碁などの趣味活動も、読書や家庭での勉強も、すべて生涯学習です。生涯学習は、知識の習得、能力の向上などによる自己実現のためだけでなく、生きがいや心の充足、充実したゆとりある生活を創出するために自ら学ぶことも含んでいます。上に挙げた様々な活動は、生涯学習のほんの一部です。

学校教育も、社会教育も「生涯学習の一部」

生涯学習は、わたしたち一人一人が自らすすんで行うことを基本とするものです。

生涯学習は、できるだけ自分にあったやり方を選びながら生涯を通じて行うものです。

生涯学習は、学校や地域社会の中で行われるだけでなく、様々な機会に行われるスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動なども含むものです。

今回のアンケートは、この1年間の中で「何かひとつでも生涯学習活動をしたことがあったか」をお伺いするところから始まります。「生涯学習」だと意識せずに活動していても、振り返ると、「生涯学習」に当てはまるものだったということもあります。この1年の自分の活動をゆっくり振り返りながら、アンケートへのご協力をお願いいたします。



アンケートフォーム

生涯学習に関する住民の意識調査 [調査票]

<調査の趣旨>

このアンケートは、普段、皆さんが生涯学習についてどのような考えをおもちになっているかを調査することにより、北海道らしい生涯学習社会の実現に向けた施策の方向性等を検討するための資料とするものです。

御多忙中のところ、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解いただき、率直な御意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

<記入に当たってのお願い>

- お答えいただく方のお名前や住所などは、記入する必要はありません。
- 質問には、回答を1つだけ選んでいただく質問、複数選んでも構いませんが、回答数が制限されている質問や回答数に制限のない質問がありますので、注意してください。
- 回答の際は、質問ごとに用意した選択肢の中から、あなたのお考えにあてはまる選択肢の番号を○印で囲んでください。「その他」に○印をつけた方は、()内に具体的な内容を記入してください。
- 一部の方だけに答えていただく質問もありますが、その場合は説明文がありますので、指示にしたがってお答えください。

<調査票の御返送について>

- 回答を御記入いただいた調査票は、記入漏れのないことをお確かめの上、市町村(教育委員会)の担当者にお渡しください。(お名前や住所の記入は不要です。)

<使用目的と調査票の破棄>

- この調査票に記入された内容については、統計処理以外の目的に使用することはありません。
- 集計後の調査票は、責任をもって処分しますので、個人の秘密は守られ、御迷惑がかかることはありません。

◆調査についての問い合わせ先◆

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課 人材育成・開発グループ 兼
北海道立生涯学習推進センター 担当：松浦、斉藤

TEL：011-204-5782 FAX：011-261-7431

「生涯学習」について

この調査における「生涯学習」とは、人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や公民館における社会教育など、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動など、さまざまな学習活動のことをいいます。

問1 あなたは、この1年くらいの間に「生涯学習」を行いましたか。次の中から1つだけお選びください。

- | | | |
|--------------------|---|-----------------|
| 1 生涯学習を行(おこな)った | ⇒ | 問1-1、問1-2、問1-3へ |
| 2 生涯学習を行(おこな)っていない | ⇒ | 問2へ |

[問1で「1 行(おこな)った」と回答された方のみにお聞きます]

問1-1 あなたは、その学習活動をどのような場所や形態で行いましたか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。

- | |
|------------------------------------|
| 1 公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室 |
| 2 カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育 |
| 3 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室 |
| 4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程 |
| 5 職場の教育、研修 |
| 6 同好会が自主的に行っている集まり、サークル活動 |
| 7 図書館、博物館、美術館 |
| 8 テレビやラジオ |
| 9 情報端末やインターネット |
| 10 自宅での学習活動(書籍など) |
| 11 ボランティア活動など地域での活動をととしての学習 |
| 12 その他(具体的に：) |

[問1で「1 行（おこな）った」と回答された方のみにお聞きします]

問1-2 あなたがこの1年くらいの間に行った学習活動について、次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。

1	趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）
2	教養的なもの（文化、歴史、科学、語学など）
3	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境など）
4	健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）
5	家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
6	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）
7	就職や転職のために必要な知識・技能（就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得など）
8	職業において必要な知識・技能（現在の仕事のスキルアップや仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
9	情報通信分野の知識・技能（SNSの利用の仕方など）
10	ボランティア活動のために必要な知識・技能
11	自然体験や生活体験などの体験活動
12	その他（具体的に： _____）

[問1で「1 行（おこな）った」と回答された方のみにお聞きします]

問1-3 あなたは、その学習活動を通じて身につけた知識・技術や経験をどのように生かしていますか。次の①～⑦のそれぞれについて、1～6から1つだけお選びください。

	生 か し て い る	い え ど る ば ち 生 ら か し と 言	言 ど え ち な い と も	い え ど な ば ち い 生 ら か し と 言	い 生 か し て い な	わ か ら な い
① 仕事や職業で生かしている	1	2	3	4	5	6
② 資格の取得に役立てている	1	2	3	4	5	6
③ まちづくりやボランティア活動などに生かしている	1	2	3	4	5	6
④ 子どもたちを育むための活動に生かしている	1	2	3	4	5	6
⑤ 他の人（子どもたちを除く）の学習やスポーツ活動、文化活動などの指導に生かしている	1	2	3	4	5	6
⑥ 自分の人生をより豊かにしている	1	2	3	4	5	6
⑦ 自分の健康維持・増進に役立てている	1	2	3	4	5	6

[問1で「2 行（おこな）っていない」と回答された方のみにお聞きします]

問2 この1年間で「生涯学習」を行わなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。

1	仕事が忙しくて時間がない	2	特に必要がない
3	きっかけがつかめない	4	家事・育児・介護などが忙しくて時間がない
5	身近なところに学習する場がない	6	時間帯が希望に合わない
7	学習するための費用がかかる	8	学習より優先したいことがある
9	一緒に学習する仲間がいない		
10	学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない		
11	学習したい内容の講座が開設されていない		
12	学習しても職場から評価されない		
13	その他（具体的に： _____）		

[問3からは全員お答えください]

問3 あなたは、現在の生活や生きがいについて、どのように感じていますか。次の①・②のそれぞれについて、1～6から1つだけお選びください。

	と も 思 う	言 ど え ち ら 思 か う と	言 ど え ち な い と も	思 言 ど わ え ち な ば ら か と	い 全 く 思 わ な	わ か ら な い
① あなたは現在の生活に満足していますか。	1	2	3	4	5	6
② あなたは生きがいを感じて生活していますか。	1	2	3	4	5	6

問4 あなたは、お住まいの地域の生涯学習の実態について、どのように思いますか。次の①～⑩のそれぞれについて、1～6から1つだけお選びください。

		とても 思う	言 え ど ち ら ば ら か う と	言 え ど ち な い と も	思 言 え ど ち ら ば ら か う と	い 全 く 思 わ な い	わ か ら な い
①	お住まいの地域には、学習した成果を生かす場や機会が充実していると思う	1	2	3	4	5	6
②	お住まいの地域では、住民が自ら学習に取り組もうとする人が多いと思う	1	2	3	4	5	6
③	お住まいの地域では、インターネットを活用した学習やそれを支援する仕組みが充実していると思う	1	2	3	4	5	6
④	お住まいの地域では、役場等の行政機関がNPOやボランティア団体と協働した取組を活発に行っていると思う	1	2	3	4	5	6
⑤	お住まいの地域では、自治会・町内会などの活動が活発に行われていると思う	1	2	3	4	5	6
⑥	お住まいの地域には、子どもたちが多様な体験活動をする場や機会が多いと思う	1	2	3	4	5	6
⑦	お住まいの地域では、子どもたちの読書活動が充実していると思う	1	2	3	4	5	6
⑧	お住まいの地域では、子どもたちが異年齢・異世代と交流する場や心を落ち着けられる居場所が充実していると思う	1	2	3	4	5	6
⑨	お住まいの地域では、多くの地域住民が子どもたちの活動に関わりを持っていると思う	1	2	3	4	5	6
⑩	お住まいの地域では、家庭教育や子育てに関する学習・相談の機会が充実していると思う	1	2	3	4	5	6

問5 あなたは、日常生活の課題について、どのように捉えていますか。次の①～⑫のそれぞれについて、1～6から1つだけお選びください。

		で大 あ き な 課 題	課 言 え ど ち ら ば ら か う と	言 え ど ち な い と も	で言 え ど ち ら ば ら か う と	い課 題 で は な い	わ か ら な い
①	地球温暖化や自然環境の保全など、環境に関すること	1	2	3	4	5	6
②	安全・安心な食材や望ましい食習慣など、食に関すること	1	2	3	4	5	6
③	異文化の理解や交流など、国際理解に関すること	1	2	3	4	5	6
④	介護や孤独死、地場産業の担い手不足など、超高齢社会に関すること	1	2	3	4	5	6
⑤	災害の危険性に関する理解や共助体制など、防災に関すること	1	2	3	4	5	6
⑥	女性の人権尊重や社会進出の促進など、男女平等参画に関すること	1	2	3	4	5	6
⑦	犯罪や交通事故、疾病など、安全・安心な暮らしに関すること	1	2	3	4	5	6
⑧	悪質な販売方法や特殊詐欺など、消費者教育に関すること	1	2	3	4	5	6
⑨	児童虐待やプライバシーの侵害など、人権に関すること	1	2	3	4	5	6
⑩	障がい者への配慮など、だれもが暮らしやすいまちづくりに関すること	1	2	3	4	5	6
⑪	ボランティアや地域の活性化など、地域活動に関すること	1	2	3	4	5	6
⑫	家庭の経済や生活環境、学習機会の格差など、子どもの貧困に関すること	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、各地域活動やボランティア活動の参加についてどのように考えていますか。次の①～⑤のそれぞれについて、1～5から1つだけお選びください。

	し 今と 参 た 後 が 加 い も あ し 参 り た 加 こ	た 参 が と 参 い 加 、 が 加 し 今 な し て 後 い た み は	な 参 が と 参 い 加 、 が 加 し 今 あ し た 後 る た こ	し 今と 参 た 後 が 加 い も あ し 参 り た 加 こ	わ か ら な い
① 学校教育を支援する活動	1	2	3	4	5
② 生活課題を抱える人や子育てなどを支援する活動	1	2	3	4	5
③ ボランティア活動や災害復旧などを支援する活動	1	2	3	4	5
④ 地域活性化などのまちづくりや子ども会指導、自治会活動	1	2	3	4	5
⑤ 自然保護の活動やリサイクル運動などの環境保全などに関する活動	1	2	3	4	5

※生活課題の例：障がい・高齢者など家族の問題、不登校・いじめなど子どもの問題、近所トラブル、DV、独居など（内閣府の調査から）

問7 多くの人が地域活動や社会活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。この中からいくつでもお選びください。

1	地域や社会に関する講習会の開催など、活動への参加につながるようなきっかけづくり
2	地域や社会での活動に関する情報提供
3	活動の成果が社会的に評価されること
4	交通費などの必要経費の支援
5	コーディネーターなど、地域や社会での活動を支える人的体制や活動の拠点となる場が整っていること
6	わからない
7	その他（具体的に

問8 あなたは、機会があれば再び学びたいと思うものはありますか。次の1～16からいくつでもお選びください。

1	日本語による実用的な文章表現やコミュニケーションの方法に関すること
2	文学や古典（古文や漢文）の理解に関すること
3	日本や世界の歴史・地理に関すること
4	法律や政治、経済、国際関係に関すること
5	宗教や哲学に関すること
6	心理学に関すること
7	自然科学や数学に関すること
8	健康やスポーツに関すること
9	芸術文化（音楽、芸術など）に関すること
10	外国語に関すること
11	消費生活、衣食住などに関すること
12	情報通信分野（SNSの利用の仕方など）に関すること
13	工業技術（情報通信に関するものを除く）に関すること
14	農林水産業に関すること
15	経営ビジネス（起業、財務会計、マーケティングなど）に関すること
16	医療や福祉（子育て、保育、介護など）に関すること

◇最後にあなた自身のことについておたずねします。

■ 市町村名を記入してください。

市町村名	
------	--

■ 性別・職業・年齢の該当する番号に○印をつけてください。

性別	1. 男 2. 女	職業	1. 学生 2. 会社員・公務員 3. パート・アルバイト 4. 自営業 5. 無職
年齢	1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上		

■ 「まちづくり」や「むらおこし」などのボランティア団体や、NPO等に所属していますか。

1. はい（団体名：	）	2. いいえ
------------	---	--------

■ 道民カレッジ※の受講生ですか。

1. はい 2. いいえ

※道民カレッジは、北海道知事を学長としており、だれでも、いつでも、入学することができます。また、受講生は学んだことを地域で生かすことができます。

ご協力ありがとうございました。 調査票は市町村の担当者にお渡しください。

令和4年度 文部科学省委託事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」【調査研究事業】
「インクルーシブキャンプIn ほっかいどう～すべては「ととのう」ために～」事後アンケート

このたびは、インクルーシブキャンプの事業にご参加いただき、ありがとうございました。

今後、障がい者の方へ効果的に学習を支援するための参考にしたいので、アンケートへのご協力を
をお願いします。障がい当事者の視点から見たプログラムの内容や施設の利用について、感想や課題点
などをお書きください。

なお、報告書には匿名で記載し、個人が特定されることはありません。

1. 氏名をお書きください。

氏名	
----	--

2. 事業に参加してあなたが感じたことをお答えください。

回答は各設問について、下記の4～1の区分の中から1つを選んで○をつけてください。				
〔 4 満足	3 やや満足	2 やや不満	1 不満	〕 ・ 自由記述

(1) 事業の実施内容について

実施内容	満足度	自由記述欄（感想・要望など）
①事業全体（日程、内容等）	4 3 2 1	
②事業のプログラム（活動）	4 3 2 1	
③事業の運営（しおり、説明等）	4 3 2 1	
④職員の指導・助言や対応	4 3 2 1	
⑤その他（ ）	4 3 2 1	

(2) 体験活動プログラムについて

プログラム	満足度	自由記述欄（感想・要望など）
①テントサウナ体験	4 3 2 1	
②ボッチャ体験	4 3 2 1	
③コーヒー教室	4 3 2 1	

(3) ネイパルの施設について

施設	満足度	自由記述欄（感想・要望など）
① 食堂（食事を含む）	4 3 2 1	
② 玄関	4 3 2 1	
③ 研修室（活動場所）	4 3 2 1	
④ トイレ・洗面所	4 3 2 1	
⑤ 浴室	4 3 2 1	
⑥ 寝室	4 3 2 1	
⑦ その他（ ）	4 3 2 1	
⑧ 総合評価	4 3 2 1	

3. この事業に参加した感想などをご自由にお書きください。

4. その他、ご意見やお気づきの点がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

問合せ先 北海道立生涯学習推進センター

TEL 011-204-5782

令和4年度 文部科学省委託事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」【調査研究事業】
「インクルーシブキャンプIn ほっかいどう～すべては「ととのう」ために～」事後アンケート

このたびは、インクルーシブキャンプの事業にご参加いただき、ありがとうございました。

今後、障がい者の方へ効果的に学習を支援するための参考にしたいので、アンケートへのご協力を
をお願いします。障がい当事者の視点から見たプログラムの内容や施設の利用について、感想や課題点
などをお書きください。

なお、報告書には匿名で記載し、個人が特定されることはありません。

1. 氏名をお書きください。

氏名	
----	--

2. 事業に参加してあなたが感じたことをお答えください。

回答は各設問について、下記の4～1の区分の中から1つを選んで○をつけてください。				
〔 4 満足	3 やや満足	2 やや不満	1 不満	〕 ・ 自由記述

(1) 事業の実施内容について

実施内容	満足度	自由記述欄（感想・要望など）
①事業全体（日程、内容等）	4 3 2 1	
②事業のプログラム（活動）	4 3 2 1	
③事業の運営（説明等）	4 3 2 1	
④職員の指導・助言や対応	4 3 2 1	
⑤その他（ ）	4 3 2 1	

(2) 体験活動プログラムについて

プログラム	満足度	自由記述欄（感想・要望など）
①フィットネスマシン体験	4 3 2 1	
②テントサウナ体験	4 3 2 1	

(3) ネイパルの施設について

施設	満足度	自由記述欄（感想・要望など）
① 食堂（食事を含む）	4 3 2 1	
② 玄関	4 3 2 1	
③ 研修室（活動場所）	4 3 2 1	
④ トイレ・洗面所	4 3 2 1	
⑤ 浴室	4 3 2 1	
⑥ その他（ ）	4 3 2 1	
⑦ 総合評価	4 3 2 1	

3. この事業に参加した感想などをご自由にお書きください。

4. その他、ご意見やお気づきの点がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

問合せ先 北海道立生涯学習推進センター
TEL 011-204-5782

本調査研究に関するお問い合わせ

〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目「かでる 2・7」8 階
北海道立生涯学習推進センター

電話 011-204-5782

FAX 011-261-7431

E-mail kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp

HP「生涯学習ほっかいどう」

<https://manabi.pref.hokkaido.jp/index.html>

調査研究報告書（第 45 号）

令和 5 年 3 月発行

編集・発行 北海道立生涯学習推進センター
〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目
電話 011-204-5782